



Hewlett Packard
Enterprise

Smart Update Manager 8.9.0 CLIユーザーガイド

部品番号: 30-8633D7C1-890-ja-JP
発行: 2021 年11月
版数: 1

Smart Update Manager 8.9.0 CLIユーザーガイド

摘要

このガイドでは、SUM CLIモード、および入力ファイルモードを使用して、HPE ProLiantおよびIntegrityサーバーにファームウェアアップデートを適用し、HPE ProLiant、HPE BladeSystem、HPE Synergy、およびHPE Apolloのサーバーとインフラストラクチャにシステムソフトウェアアップデートを適用する方法について説明します。このガイドは、Microsoft Windows、Windows Server、Linux、Smartコンポーネント、VMwareの構成および操作、ならびにアップデートの実行に伴うデータ消失の危険性について理解している担当者を対象にしています。

部品番号: 30-8633D7C1-890-ja-JP

発行: 2021 年11月

版数: 1

© Copyright 2014, 2021 Hewlett Packard Enterprise Development LP

ご注意

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱落に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett Packard Enterprise から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商業用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアドキュメンテーション、および商業用製品の技術データ (Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items) は、ベンダー標準の商業用使用許諾のもとで、米国政府に使用許諾が付与されます。

他社の Web サイトへのリンクは、Hewlett Packard Enterprise の Web サイトの外に移動します。Hewlett Packard Enterprise は、Hewlett Packard Enterprise の Web サイト以外の情報を管理する権限を持たず、また責任を負いません。

商標

Microsoft[®]およびWindows[®]は、米国および/またはその他の国におけるMicrosoft Corporationの登録商標または商標です。

UNIX[®]は、The Open Groupの登録商標です。

Linux[®]は、Linus Torvaldsの米国およびその他の国における登録商標です。

目次

1 SUM CLIについて

- 1.1 SUM CLIモードと入力ファイルモード
- 1.2 SUM CLIモード
- 1.3 アップデートのスケジュール
- 1.4 リモートノードでのLinuxのroot認証情報
 - 1.4.1 Linuxのsudo認証情報を使用するための前提条件
 - 1.4.2 root認証情報でのSSHキーファイルの使用

2 SUMのCLIコマンドと入力ファイルコマンドの概要

- 2.1 コマンドライン構文
- 2.2 コマンドラインの説明
- 2.3 入力ファイルの概要
- 2.4 入力ファイルのセクション

3 SUM CLIコマンドタスクの例

- 3.1 CLIコマンドの例について
- 3.2 入力ファイルコマンドの発行
- 3.3 ローカルホストのアップデート
- 3.4 リモートノードのアップデート
- 3.5 1つのベースラインでの2つのノードのアップデート
- 3.6 ノード上のソフトウェアのみのアップデート
- 3.7 ノード上のファームウェアのみのアップデート
- 3.8 ノードへの最新コンポーネントの展開
- 3.9 ノード上での旧バージョンのコンポーネントの強制的な展開
- 3.10 2つのソフトウェアコンポーネントの展開
- 3.11 sudoを使用したリモートのLinuxノードのアップデート
- 3.12 Superdome Xパーティションのアップデート
- 3.13 スーパーユーザーの認証情報を使用したノードのアップデート
- 3.14 SSHキーを使用したLinuxノードのアップデート

4 CLIのパラメーター

- 4.1 管理エージェントインストールのパラメーター
- 4.2 SUM CLIパラメーター
 - 4.2.1 ヘルプ
 - 4.2.2 インストールパラメーター
 - 4.2.2.1 強制
 - 4.2.2.2 ダウングレード
 - 4.2.2.3 再書き込み
 - 4.2.2.4 ROM展開のみ
 - 4.2.2.5 ソフトウェア展開のみ
 - 4.2.2.6 使用するネットワークポート
 - 4.2.2.7 SSLポート
 - 4.2.2.8 ファイアウォールのオープン
 - 4.2.2.9 サイレント展開
 - 4.2.2.10 展開するコンポーネントの指定
 - 4.2.2.11 インストールするバンドルの定義
 - 4.2.2.12 ベースラインの場所の定義
 - 4.2.2.13 コンポーネント構成のインポート
 - 4.2.2.14 UNCユーザー認証情報
 - 4.2.2.15 UNCパスワード認証情報

- 4.2.2.16 管理エージェントコンポーネントなし
- 4.2.2.17 SNMPエージェントコンポーネントの使用
- 4.2.2.18 WMIエージェントコンポーネントの使用
- 4.2.2.19 AMSエージェントコンポーネントの使用
- 4.2.2.20 高速インストール
- 4.2.3 エラーを無視するパラメーター
 - 4.2.3.1 TPMのバイパス
 - 4.2.3.2 警告の無視
 - 4.2.3.3 インストールの続行とエラーの無視
 - 4.2.3.4 既存の接続の無効化
 - 4.2.3.5 失敗した依存状態
- 4.2.4 再起動パラメーター
 - 4.2.4.1 再起動
 - 4.2.4.2 再起動メッセージ
 - 4.2.4.3 再起動遅延
 - 4.2.4.4 常に再起動
- 4.2.5 実行パラメーターのテスト
- 4.2.6 ノードパラメーター
 - 4.2.6.1 ユーザー名
 - 4.2.6.2 ユーザーパスワード
 - 4.2.6.3 iLOユーザー名
 - 4.2.6.4 iLOパスワード
 - 4.2.6.5 SSHキーファイルの使用
 - 4.2.6.6 プライベートキーファイルの場所
 - 4.2.6.7 SSHパスフレーズ
 - 4.2.6.8 スーパーユーザー名
 - 4.2.6.9 スーパーユーザーのパスワード
 - 4.2.6.10 sudo認証情報の使用
 - 4.2.6.11 ターゲットアドレスの定義
 - 4.2.6.12 ターゲットタイプの定義
 - 4.2.6.13 ユーザーの現在の認証情報
 - 4.2.6.14 OAユーザー名
 - 4.2.6.15 OAユーザーのパスワード
 - 4.2.6.16 FIPSモードでのVCの有効化
 - 4.2.6.17 VC-Enetモジュールの有効化順序
 - 4.2.6.18 VC-FC有効化順序
 - 4.2.6.19 VC-Enetの有効化とrebootオプション
 - 4.2.6.20 VC-FCの有効化とrebootオプション
 - 4.2.6.21 VCenterホスト
 - 4.2.6.22 VCenterユーザー名
 - 4.2.6.23 VCenterのパスワード
 - 4.2.6.24 iLO 5のパラメーター
 - 4.2.6.25 iLOのスキップ
 - 4.2.6.26 前提条件のスキップ
- 4.2.7 ログファイルのパラメーター
 - 4.2.7.1 ログパラメーター
 - 4.2.7.2 冗長レベルのログ記録
- 4.2.8 レポートパラメーター
 - 4.2.8.1 ノード概要レポートの生成

- 4.2.8.2 インベントリレポジトリレポートの生成
 - 4.2.8.3 インストール済みファームウェアレポートの生成
 - 4.2.8.4 失敗した依存関係のレポートの生成
 - 4.2.8.5 インストール済みアップデートレポートの生成
 - 4.2.8.6 結合レポートの生成
 - 4.2.8.7 レポートディレクトリ
 - 4.2.9 入力ファイルのパラメーター
 - 4.2.9.1 入力ファイルの使用
 - 4.2.9.2 入力ファイルの削除
 - 4.2.10 Superdome Xサーバーのコマンド
 - 4.2.10.1 ファームウェアのアップデートタイプ
 - 4.2.10.2 特定デバイスのアップデート
 - 4.2.10.3 パーティションrebootオプション
 - 4.3 リターンコード
 - 4.4 Windows Smartコンポーネントのリターンコード
 - 4.5 Linux SmartコンポーネントのリターンコードとファームウェアRPMのリターンコード
 - 4.6 LinuxソフトウェアRPMのリターンコード
 - 4.7 VMware ESXi Smartコンポーネントのリターンコード
- 5 入力ファイルのパラメーターを使用したCLI
 - 5.1 入力ファイルにおけるコンポーネント固有の構成
 - 5.1.1 入力ファイルでのコンポーネントの構成
 - 5.2 入力ファイルのエンコードについて
 - 5.3 エラーのレポート
 - 5.4 入力ファイルのパラメーター
 - 5.5 SDRからのSUMおよびコンポーネントのダウンロード
- 6 Webサイトおよびサポート
 - 6.1 サポートと他のリソース
 - 6.1.1 Hewlett Packard Enterpriseサポートへのアクセス
 - 6.1.2 アップデートへのアクセス
 - 6.1.3 リモートサポート (HPE通報サービス)
 - 6.1.4 保証情報
 - 6.1.5 規定に関する情報
 - 6.1.6 ドキュメントに関するご意見、ご指摘

SUM CLIモードと入力ファイルモード

SUMのCLIモードと入力ファイルモードを使用して、ローカルおよびリモートのノードにベースラインからのアップデートを展開できます。

CLIモードでは、1つのコマンドラインにすべてのパラメーターを追加し、ユーザーが操作することなく複数のノードでシーケンス全体を実行します。この方法では、`silent` コマンドが必要です。1つのノードをアップデートする場合は、この方法を使用します。

入力ファイルモードを使用してすべてのパラメーターを1つのテキストファイルに追加し、このテキストファイルの名前を `inputfile` コマンドのパラメーターとして指定して、SUMを呼び出します。この方法では、`silent` コマンドが必要です。複数のノードをアップデートする場合は、この方法を使用します。

SUMのCLIモードと入力ファイルモードは、プロセス指向のツールです。SUMはコマンドを終了した後、その設定や結果を保存しません。いくつかの手順を実行し、その作業を後のために保存する必要がある場合は、GUIモードを使用します。

注記:

SUM 8.5.0以降、対話型コマンドラインモードのアップデートは非推奨になりました。スクリプトが正しく機能するようにするには、対話型CLIからレガシーコマンドラインに移行します。入力ファイルを含むコマンドラインは、ほとんどの顧客のニーズを満たすはずですが、コマンドライン入力や入力ファイルを変更することなく、SPPおよびSUMバージョン全体で大規模なアップデートを行うことができます。

使用しているサーバー環境に最も適したSUMのCLIモードを選択してください。

CLI

ノードの数：1~3

長所：

- 1つのコマンドでノードに対するすべての指示を与えます。

入力ファイルCLI

ノードの数：1-50

注記:

10個のVMwareノードのみを使用できます。

長所：

- ベースラインとノードのすべての情報が含まれているファイルを作成します。
- 後で使用するためにファイルを保存します。
- 入力ファイルを呼び出すCLIコマンドを発行します。

アップデートのスケジュール

標準のオペレーティングシステムツールを使用して、CLIコマンドの実行スケジュールを設定します。たとえば、Windowsではタスクスケジューラを使用し、Linuxシステムではcronを使用します。必ず、コマンドに `s` (サイレント) パラメーターを含めるようにしてください。タスクのスケジュールについて詳しくは、オペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。

注記:

入力ファイルでは、スケジューリングパラメーターをサポートしていません。

リモートノードでのLinuxのroot認証情報

root認証情報を提供するか、sudo権限のあるユーザーを提供するか、リモートノードでroot以外の認証情報とroot認証情報を提供することができます。

スーパーユーザーの機能を使用するには、ユーザーをすべてのroot特権を持つスーパーユーザーとして構成します。また、rootユーザーとともにroot以外のユーザーを使用してコンポーネントをアップデートすることもできます。

Linuxのsudo認証情報を使用するための前提条件

- 次のいずれかを指定します。
 - ユーザー名とパスワード
 - ユーザー名とSSHキーのファイルパス（PEM形式）
- sudoユーザーに `/var/tmp` ディレクトリへの書き込みアクセスを提供します。
- sudoユーザーについては、`/etc/sudoers` ファイルにユーザーを追加します。以下に、各ユーザーの権限と指定値を示します。
 - ユーザー： `<Sudo_user>`（ユーザーアカウントの実際の名前）
 - 権限： `ALL`
 - 仕様： `ALL`
- sudoコマンドの実行時にシステムがrootユーザーのパスワードではなくsudoユーザーのパスワードを求めるように、`/etc/sudoers` ファイルのエントリを編集します。
- 以下に、`/etc/sudoers` でコメント化または削除する権限を示します。
 - ユーザー： `ALL`
 - 権限： `ALL`
 - 仕様： `ALL`

注記:

このオプションは必ずすべてのシステム上でデフォルトの `targetpw` を指定して使用してください。

- ログイン認証情報のSSHキーをsudoと組み合わせて使用する際には、システムがユーザーパスワードを要求しないように、`/etc/sudoers` ファイルのエントリを次のように編集します。
 - ユーザー： `sudo_user`
 - 権限： `ALL`
 - 仕様： `NOPASSWD:ALL`

root認証情報でのSSHキーファイルの使用

SUMでは、パスワードを使用するか、SSHキーを指定することでログインできます。

手順

1. まず、SUMを実行しているノードで `ssh-keygen -t rsa` と入力します。SUMは、DSA暗号キー形式もサポートします。DSA暗号キーを作成するには、`ssh-keygen -t dsa` と入力します。パスフレーズはオプションです。
2. `.ssh/id_rsa.pub` ディレクトリ内にキーを保存します。rootユーザーの場合は、`/root/.ssh` ディレクトリを使用します。
3. キーを開き、次のテキストがあるかキーの最上部を調べて、秘密キーがPEM形式であることを確認します。

```
----- BEGIN RSA PRIVATE KEY -----
```

4. 必要に応じて、アップデートするノードで、ルートレベルに `.ssh` ディレクトリを作成します。ディレクトリでの権限レベルを700に設定します。
5. アップデートするノードに `.ssh/authorized_keys` ファイルがあるかどうかを確認します。このファイルが存在しない場合は、このファイルを作成または追加します。 `authorized_keys` ファイルに対する権限を640に設定します。

注記:

ファイルを追加すれば、より多くのユーザーが秘密キーの使用を承認されます。

6. ホストノード上の `.ssh/id_rsa.pub` の内容をコピーし、リモートノード上の `.ssh/authorized_keys` ファイルに貼り付けます。
7. ホストノードと、アップデートするノードの間のSSHパスを開きます。
 - a. `ssh root@10.0.0.1` と入力します。このパラメーターにより、シェルのパスが開きます。
 - b. `ssh root@10.0.0.1 uname` と入力します。このパラメーターにより、コマンドが実行され結果が戻されます。
8. SUMには、`id_rsa` (秘密キーファイル) へのアクセスと、オプションのパスフレーズが必要です。

注記:

その他のアプリケーションでPEM形式のパブリックキーが必要な場合は、`ssh-keygen -e -f id_rsa.pub > id_rsa_pub.pem` と入力して変換できます。キーを開き、`---BEGIN SSH2 PUBLIC KEY---` があるPEM形式であることを確認します。

Windowsシステムで秘密キーを作成するには、PuTTYやPuTTY Key Generator (PuTTYGen) などのアプリケーションを使用します。詳しくは、<https://www.digitalocean.com/community/tutorials/how-to-create-ssh-keys-with-putty-to-connect-to-a-vps> を参照してください。

ファイルをPEM形式にエクスポートするには、Conversion > Export OpenSSH keyを選択します。

コマンドライン構文

SUMのCLIモードでは、1つのコマンドラインにすべてのパラメーターを入力する必要があります。Enterキーを押すと、SUMはシーケンス全体を実行します。すべてのCLIコマンドの実行には、コマンドに `s` (サイレント) パラメーターが必要で、`/s` (Windows) または `--s` (Linux) が必要です。

① 重要:

コマンドラインモードは、ダブルバイト文字セットをサポートしていません。ダブルバイト文字セットを使用してコマンドラインに入力されたコマンドは、正しく表示されません。

SUMの一般的なコマンドライン構文は、以下のとおりです。

- Windowsでは、各引数の前にスラッシュ (/) を付けます。

```
smartupdate /s /use_location <baseline_directory>
```

- Linuxでは、各引数の前に2つのハイフン (--) を付けます。

```
smartupdate --s --use_location <baseline_directory>
```

ⓘ 注記:

`/target` と Onboard Administrator (エンクロージャーファームウェア) のIPアドレスの後にOAをアップデートする場合は、ユーザー名とOA管理者の認証情報を指定する必要があります。ユーザーIDは、管理者相当のIDを使用する必要があり、オペレーターやユーザーレベルのIDは使用できません。

コマンドラインの説明

`smartupdate`

SUMを起動します。

`--s` (Linux) `/s` (Windows)

CLIモードを開始します。

その他のインストールパラメーターについては、[インストールパラメーター](#)を参照してください。

`--target` (Linux) `/target` (Windows)

ターゲットノードの詳細を指定します。

その他のノードパラメーターについては、[ノードパラメーター](#)を参照してください。

`--on_failed_dependency` (Linux) `/on_failed_dependency` (Windows)

このパラメーターは、依存関係の問題を処理する方法をSUMに指示します。

エラーを無視するその他のパラメーターについては、[エラーを無視するパラメーター](#)を参照してください

`--r` (Linux) `/r` (Windows)

アップデートを展開した後にノードを再起動するかどうかをSUMに指示します。

その他の再起動パラメーターについては、[再起動パラメーター](#)を参照してください

`--v` (Linux) `/v` (Windows)

冗長ログの設定を使用するようにSUMに指示します。

その他のログパラメーターについては、[ログファイルのパラメーター](#)を参照してください。

`--report` (Linux) `/report` (Windows)

SUMレポートを生成します。

その他のレポートパラメーターについては、[レポートパラメーター](#)を参照してください。

`--h` (Linux) `/h` (Windows)

SUM CLIのヘルプファイルを起動します。

入力ファイルの概要

入力ファイルには、構成の詳細とターゲットノード情報を含めます。アップデート用のユーザー認証情報とリモートホスト情報を追加できます。

① 重要:

入力ファイルはプレーンテキストファイルです。セキュリティを強化するため、認証情報はファイルから省略し、コマンドラインを使用して認証情報をSUMに渡してください。コマンドラインでユーザー認証情報を指定する場合は、入力ファイル内のすべてのノードで同じユーザーIDとパスワードを使用する必要があります。

入力ファイルでSUM CLIを使用すると、ノードをアップデートする `.txt` ファイルスクリプトを作成できます。入力ファイルを作成するには、プレーンテキストエディターを使用します。これはマークアップ言語と似ており、ヘッダーとトレーラーを一致させる必要があります。リストの値を取ることができるパラメーターには、カンマをリストの区切り文字として使用します。

スクリプトファイルを作成したら、`inputfile <filename>`パラメーターとしてSUMコマンドラインにスクリプトファイルを追加します。たとえば入力ファイル `update.in` を実行するには、次のように入力します。

- Linux : `smartupdate --inputfile update.in`
- Windows : `smartupdate /inputfile update.in`

入力ファイルがSUM実行可能ファイルと同じ場所に保存されていない場合は、そのファイルの場所へのフルパスを追加できます。スペースの入っているパスを指定するには、`<filename>`フィールドを二重引用符で囲みます。

📄 注記:

ファイアウォールポートを開くための入力ファイルパラメーターはありません。ファイアウォールを開く場合は、パラメーターとして `--open_firewall` (Linux) または `/open_firewall` (Windows) を、入力ファイルを呼び出すコマンドに追加します。以下に例を示します。

- Linux : `smartupdate --inputfile update.in --open_firewall --s`
- Windows : `smartupdate /inputfile update.in /open_firewall /s`

入力ファイルを編集せずに入力ファイルを変更するには、入力ファイルにすべてのコマンドラインオプションを使用します。コマンドラインオプションは、入力ファイル内のコマンドよりも優先されます。

入力ファイルのセクション

入力ファイルには、構成およびターゲット情報セクションが含まれています。入力ファイルでは、テキストの1行ごとに1つのパラメーターがサポートされます。

```
#Input file sample
SILENT = YES
IGNOREERRORS = ServerNotFound,BadPassword, FailedDependencies
SKIPTARGET = NO
SOURCEPATH = C:\SPP
FORCEALL = YES
REBOOTALLOWED = YES
REBOOTDELAY = 30
REBOOTMESSAGE = "Install complete, server will reboot in 30 seconds"
[TARGETS]
HOST = 192.168.1.1
UID = user
PWD = password
[END]
[TARGETS]
HOST = 192.168.1.2
HOST = 192.168.1.2
UID = user2
PWD = password2
[END]
```

構成セクション

このセクションでは、入力ファイルのすべてのパラメーターを割り当てます。構成セクションの終了部から `TARGETS` セクションを開始します。

シャープ (#) 記号で始まる行は注記です。1行に複数のシャープ記号 (#) を使用することはできません。

```
#Input file sample
SILENT = YES
IGNOREERRORS = ServerNotFound,BadPassword, FailedDependencies
SKIPTARGET = NO
SOURCEPATH = C:\SPP
FORCEALL = YES
REBOOTALLOWED = YES
REBOOTDELAY = 30
REBOOTMESSAGE = "Install complete, server will reboot in 30 seconds"
```

ターゲットセクション

このセクションは、アップデートする各ノードを定義します。

```
[TARGETS]
HOST = 192.168.1.1
UID = user
PWD = password
[END]
```

ターゲットセクション

```
[TARGETS_GROUP_HOME]
HOST = 192.168.1.2
HOST = 192.168.1.2
UID = user2
PWD = password2
[END]
```

複数のノードで同じユーザー認証情報を使用する場合、同じ `TARGETS` セクションにすべてのノードをリストします。

`[TARGETS]` タイトルにテキストを追加して、ターゲットの詳細を示すことができます。

CLIコマンドの例について

次のタスクは、CLIコマンドおよび入力ファイルを構成する方法の例を示します。使用できるパラメーターについて詳しくは、[SUM CLIのパラメーターと入力ファイルのパラメーター](#)を参照してください。

入力ファイルコマンドの発行

手順

1. コマンドラインウィンドウを開きます。
2. SUMが配置されているディレクトリに移動します。
3. 使用しているオペレーティングシステムに応じて、次のコマンドを入力します。
 - Linux : `./ smartupdate --inputfile <path:/inputfile.txt>`
 - Windows : `smartupdate /inputfile <path:\inputfile.txt>`

注記:

入力ファイルにパラメーター `SILENT = YES` が含まれていない場合は、CLIに `s` (サイレント) パラメーターを含めます。サイレントパラメーターを指定しない場合、SUMは入力ファイルを処理できません。

ローカルホストのアップデート

次の例では、ローカルホストにベースライン内のすべてのアップデートを適用します。

CLIモードでSUMと同じディレクトリにあるベースラインを使用する

- Linux : `./ smartupdate --silent`
- Windows : `smartupdate /silent`

CLIモードでSUMと異なるディレクトリにあるベースラインを使用する

- Linux : `./ smartupdate --silent --use_location <directorypath>`
- Windows : `smartupdate /silent /use_location <directorypath>`

入力ファイルモードでSUMと同じディレクトリにあるベースラインを使用する

```
SILENT = YES
[TARGETS]
HOST = localhost
UID = <userid>
PWD = <password>
[END]
```

SUMでは、Windowsドメイン（たとえば、`domain1/userid1`）がサポートされています。

入力ファイルモードでSUMと異なるディレクトリにあるベースラインを使用する

```
SILENT = YES
SOURCEPATH = <baseline_path>
[TARGETS]
HOST = localhost
UID = <userid>
PWD = <password>
[END]
```

リモートノードのアップデート

次の例では、リモートノードにベースライン内のすべてのアップデートを適用します。

CLIモードでSUMを実行しているディレクトリと同じディレクトリからベースラインを使用する

- Linux : `./ smartupdate --s --target <ip_address> --targettype <type> --user <userid> --passwd <password>`
- Windows : `smartupdate /s /target <ip_address> /targettype <type> /user <userid> /passwd <password>`

SUMでは、Windowsドメイン（たとえば、`domain1/userid1`）がサポートされています。

CLIモードでSUMと異なるディレクトリにあるベースラインを使用する

- Linux : `./ smartupdate --s --target <ip_address> --targettype <type> --user <userid> --passwd <password> --use_location <directorypath>`
- Windows : `smartupdate /s /target <ip_address> /targettype <type> /user <userid> /passwd <password> /use_location <directorypath>`

SUMでは、Windowsドメイン（たとえば、`domain1/userid1`）がサポートされています。

入力ファイルモードでSUMを実行しているディレクトリと同じディレクトリからベースラインを使用する

```
SILENT = YES
ONFAILEDDEPENDENCY = OMITCOMPONENT
TARGETTYPE = <TYPE>
[TARGETS]
HOST = <node_ip_address>
UID = <userid>
PWD = <password>
[END]
```

入力ファイルモードでSUMと異なるディレクトリにあるベースラインを使用する

```
SILENT = YES
SOURCEPATH = <baseline_directory>
ONFAILEDDEPENDENCY = OMITCOMPONENT
TARGETTYPE = <TYPE>
[TARGETS]
HOST = <node_ip_address>
UID = <userid>
PWD = <password>
[END]
```

1つのベースラインでの2つのノードのアップデート

CLIモードで2つのノードにベースライン内のすべてのアップデートを適用する

- Linux : `./ smartupdate --s --target <ip_address_1> --targettype <type_1> --user <userid_1> --passwd <password_1> --target <ip_address_2> --targettype <type_2> --user <userid_2> --passwd <password_2>`
- Windows : `smartupdate /s /target <ip_address_1> /targettype <type_1> /user <userid_1> /passwd <password_1> /target <ip_address_2> /targettype <type_2> /user <userid_2> /passwd <password_2>`

注記:

これらの例は、SUMを実行しているディレクトリと同じディレクトリにあるベースラインを使用します。別のベースラインを使用する場合は、そのベースラインのディレクトリパスを指定した次のコマンドを含めます。

```
/use_location <baseline_directory_path>
```

入力ファイルモードで2つのノードにベースライン内のすべてのアップデートを適用する

```
SILENT = YES
IGNOREERRORS = ServerNotFound,BadPassword, FailedDependencies
SKIPTARGET = NO
ONFAILEDDEPENDENCY = OMITCOMPONENT
[TARGETS]
HOST = <ipaddress_1>
TARGETTYPE = <type_1>
UID = <userid_1>
PWD = <password_1>
[END]
[TARGETS]
HOST = <ipaddress_2>
TARGETTYPE = <type_2>
UID = <userid_2>
PWD = <password_2>
[END]
```

注記:

両方のノードで同じユーザー認証情報を使用する場合、それらのノードにはユーザー認証情報を1回だけ指定します。2番目の TARGETS エントリーを作成する代わりに、最初のノードエントリーに2番目のノードのIPアドレスを入力します。以下に例を示します。

```
[TARGETS]
HOST = <ipaddress_1>
HOST = <ipaddress_2>
TARGETTYPE = <type_1>
UID = <userid_1>
PWD = <password_1>
[END]
```

ノード上のソフトウェアのみのアップデート

これらの例を使用すると、SUMはリモートノード上のソフトウェアのみをアップデートします。

CLIモードでSUMと同じディレクトリにあるベースラインから1つのノードのソフトウェアをアップデートする

- Linux : `./ smartupdate --s --target <ip_address> --user <userid> --passwd <password> --softwareonly`
- Windows : `smartupdate /s /target <ip_address> /user <userid> /passwd <password> /softwareonly`

注記:

別のベースラインを使用する場合は、次のコマンドを含めます。

- Linux : `--use_location <baseline_directory>`
- Windows : `/use_location <baseline_directory>`

入力ファイルモードでSUMと同じディレクトリにあるベースラインから1つのノードのソフトウェアをアップデートする

```
SILENT = YES
SOFTWAREONLY = YES
IGNOREERRORS = ServerNotFound,BadPassword, FailedDependencies
SKIPTARGET = NO
ONFAILEDDEPENDENCY = OMITCOMPONENT
[TARGETS]
HOST = <ip_address>
UID = <userid>
PWD = <password>
[END]
```

この例は、SUMを実行しているディレクトリと同じディレクトリに配置されているベースラインを使用します。

別のベースラインを使用するには、入力ファイルに以下を追加します。

```
SOURCEPATH = <directory_path>
```

ノード上のファームウェアのみのアップデート

ノード上のファームウェアのみをアップデートするには、ソフトウェアのみを展開した例に以下の変更を加えます。

- CLIモード - コマンド `softwareonly` を削除し、`romonly` を追加します。
- 入力ファイルモード - コマンド `SOFTWAREONLY` を削除し、`ROMONLY` を追加します。

ノードへの最新コンポーネントの展開

これらの例を使用すると、SUMは、複数のベースラインを含むディレクトリから最新のアップデートのみを適用します。

CLIモードでの最新コンポーネントの展開

- Linux : `./ smartupdate --s --target <ip_address> --user <userid> --passwd <password>`
- Windows : `smartupdate /s /target <ip_address> /user <userid> /passwd <password>`

入力ファイルモードでの最新コンポーネントの展開

```
SILENT = YES
IGNOREERRORS = ServerNotFound,BadPassword, FailedDependencies
SKIPTARGET = NO
ONFAILEDDEPENDENCY = OMITCOMPONENT
[TARGETS]
HOST = <ipaddress_1>
TARGETTYPE = <type_1>
UID = <userid_1>
PWD = <password_1>
[END]
```

ノード上での旧バージョンのコンポーネントの強制的な展開

以下の例では、SUMは、旧バージョンのコンポーネントのソフトウェア展開をノードで強制的に実行します。

CLIモードでの強制的な展開

- Linux : `./ smartupdate --f:bundle --softwareonly --use_location <baseline_directory_path> --s`
- Windows : `smartupdate /f:bundle /softwareonly /use_location <baseline_directory_path> /s`

入力ファイルモードでの強制的な展開

```
SILENT = YES
SOFTWAREONLY = YES
FORCEBUNDLE= YES
ONFAILEDDEPENDENCY = OMITCOMPONENT
[TARGETS]
HOST = <ip_address>
UID = <userid>
PWD = <password>
[END]
```

2つのソフトウェアコンポーネントの展開

以下の例では、ローカルホストに2つのコンポーネントを展開します。また、コンポーネントがすでにインストールされており、それがソフトウェアコンポーネントである場合、再書き込みまたはダウングレードを強制的に実行します。

注記:

この例では、指定されたコンポーネントがソフトウェアでない場合、SUMはそのコンポーネントを展開しません。

CLIモードでの2つのコンポーネントの展開

以下の例のいずれかを選択します。両方の例でタスクを実行します。

- Linuxオプション1: `./ smartupdate --f:software hponcfg-5.2.0-0.x86_64.rpm hp-smh-templates-10.6.1-1481.4.noarch.rpm --s`
- Linuxオプション2: `./ smartupdate --c hponcfg-5.2.0-0.x86_64.rpm --c hp-smh-templates-10.6.1-1481.4.noarch.rpm --f:software --s`
- Windowsオプション1: `smartupdate /f:software cp008097.exe cp008257.exe /s`
- Windowsオプション2: `smartupdate /c cp008097.exe /c cp008257.exe /f:software /s`

入力ファイルモードでの2つのコンポーネントの展開

```
SILENT = YES
FORCESOFTWARE = YES
COMPONENTSLIST= cp008097.exe, cp008257.exe
ONFAILEDDEPENDENCY = OMITCOMPONENT
[TARGETS]
HOST = localhost
UID = <userid>
PWD = <password>
[END]
```

sudoを使用したリモートのLinuxノードのアップデート

以下の例では、SUMは `userid` を使用してリモートのLinuxノードにログインし、`sudo` 機能を使用してコマンドを実行します。SUMは、SUMを実行しているディレクトリ内のベースラインを使用します。

sudoを使用したCLIモードでのリモートLinuxノードのアップデート

- Linux : `./ smartupdate --target <ip_address> --targettype linux --username <userid> --passwd <password> --use_sudo --use_location <baseline_directory_path> --silent`
- Windows : `smartupdate /target <ip_address> /targettype linux /username <userid> /passwd <password> /use_sudo /use_location <baseline_directory_path> /silent`

sudoを使用した入カファイルモードでのリモートLinuxノードのアップデート

```
SILENT = YES
SOURCEPATH = <baseline_path>
ONFAILEDDEPENDENCY = OMITCOMPONENT
TARGETTYPE = LINUX
[TARGETS]
HOST = <ip_address>
USESUDO = YES
UID = <userid>
PWD = <password>
[END]
```

sudoを使用したCLIモードでの複数のリモートLinuxノードのアップデート

- Linux : `./ smartupdate --s --f --target 10.0.1.15 --user sudouser1 --passwd password1 --targettype linux --use_sudo --target 10.0.1.17 --username sudouser2 --passwd password2 --targettype linux --use_sudo --use_location <baseline_directory_path>`
- Windows : `smartupdate /s /f /target 10.0.1.16 /user sudouser1 /passwd password1 /targettype linux /use_sudo /target 10.0.1.17 /username sudouser2 /passwd password2 /targettype linux /use_sudo /use_location C:\SPP\Swpackages`

Superdome Xパーティションのアップデート

以下の例では、SUMは、Superdome Xエンクロージャーのnpar3とブレード1/1の各パーティションにアップデートを展開し、パーティションを再起動してアクティブ化します。

CLIモードでのパーティションのアップデート

- **Linux** : `./ smartupdate -silent --target <ip_address> --user <userid> --password <password> --ignore_warnings --update_type PARTITIONS --devicelist npar3,blade1/1 --rebootlist npar3 --use_location <baseline_directory_path>`
- **Windows** : `smartupdate /silent /target 16.17.18.19 /user Administrator /password 12345678 /ignore_warnings /update_type PARTITIONS /devicelist npar3,blade1/1 /rebootlist npar3 /use_location C:\Users\Administrator\Desktop\SDX\3.7.60`

入力ファイルモードでのパーティションのアップデート

```
SILENT= YES
SOURCEPATH = <baseline_directory_path>
IGNOREWARNINGS = YES
[TARGET]
HOST = <ip_address>
UID = <userid>
PWD = <password>
UPDATETYPE = PARTITIONS
DEVICELIST=npar3,blade1/1
REBOOTLIST=npar3
[END]
```

スーパーユーザーの認証情報を使用したノードのアップデート

以下の例では、SUMは、リモートノードにログインし、スーパーユーザーの認証情報を使用してリモートノードをアップデートします。

CLIモードでのスーパーユーザーの認証情報の使用

- Linux : `./ smartupdate --target <ip_address> --targettype linux --username <userid> --passwd <password> --silent --su_username <su_userid> --su_password <su_password>`
- Windows : `smartupdate /target <ip_address> /targettype linux /username <userid> /passwd <password> /silent /su_username <su_userid> /su_password <su_password>`

入カファイルモードでのスーパーユーザーの認証情報の使用

1つのノードのアップデート

```
SILENT = YES
IGNOREERRORS = ServerNotFound,BadPassword, FailedDependencies
SKIPTARGET = NO
ONFAILEDDEPENDENCY=Omitcomponent
SUUSERNAME = <su_userid>
SUPASSWORD = <su_password>
[TARGETS]
HOST = <ip_address>
UID = <userid>
PWD = <password>
[END]
```

同じスーパーユーザー認証情報を使用する2つのノードのアップデート

```
SILENT = YES
IGNOREERRORS = ServerNotFound,BadPassword, FailedDependencies
SKIPTARGET = NO
ONFAILEDDEPENDENCY=Omitcomponent
SUUSERNAME = <su_userid>
SUPASSWORD = <su_password>
[TARGETS]
HOST = <ip_address_1>
UID = <userid_1>
PWD = <password_1>
[END]
[TARGETS]
HOST = <ip_address_2>
UID = <userid_2>
PWD = <password_2>
[END]
```

異なるスーパーユーザー認証情報を使用する2つのノードのアップデート

```
SILENT = YES
IGNOREERRORS = ServerNotFound,BadPassword, FailedDependencies
SKIPTARGET = NO
ONFAILEDDEPENDENCY=Omitcomponent
[TARGETS]
HOST = <ip_address_1>
UID = <userid_1>
PWD = <password_1>
SUUSERNAME = <su_userid_1>
SUPASSWORD = <su_password_1>
[END]
[TARGETS]
HOST = <ip_address_2>
UID = <userid_2>
PWD = <password_2>
SUUSERNAME = <su_userid_2>
```

```
SUPASSWORD = <su_password_2>  
[END]
```

SSHキーを使用したLinuxノードのアップデート

次の例では、SUMでSSHキーを使用してログインし、リモートLinuxノードをアップデートすることができます。SUMは、DSAおよびRSA暗号化キー形式もサポートします。次のコマンドを実行して、秘密鍵を生成します。

```
ssh-keygen -t -dsa または ssh-keygen -t -rsa
```

CLIモードでのSSHキーの使用

- Linux : `./ smartupdate --target <ip_address> --targettype linux --username <userid> --use_sshkey privatekeyfile=/privatekeyfile/location passphrase=12345 --silent`
- Windows : `smartupdate /target <ip_address> /targettype linux /username <userid> /use_sshkey privatekeyfile=c:\privatekeyfile\location passphrase=12345 /silent`

入力ファイルモードでのSSHキーの使用

1つのノードのアップデート

```
SILENT = YES
IGNOREERRORS = ServerNotFound,BadPassword, FailedDependencies
SKIPTARGET = NO
ONFAILEDDEPENDENCY=Omitcomponent
USE_SSHKEY = YES
[TARGETS]
HOST = <ip_address>
UID = <userid>
PRIVATEKEYFILE = c:\<keyfile_directory>
PASSPHRASE = <passphrase_string>
[END]
```

同じキーファイルとSSHKEYを使用する2つのノードのアップデート

```
SILENT = YES
IGNOREERRORS = ServerNotFound,BadPassword, FailedDependencies
SKIPTARGET = NO
ONFAILEDDEPENDENCY=Omitcomponent
USE_SSHKEY=YES
PRIVATEKEYFILE = c:\<keyfile_directory>
PASSPHRASE = <passphrase_string>
[TARGETS]
HOST = <ip_address_1>
UID = <userid_1>
[END]
[TARGETS]
HOST = <ip_address_2>
UID = <userid_2>
[END]
```

異なるSSHキーファイルとパスフレーズを使用する2つのノードのアップデート

```
SILENT = YES
IGNOREERRORS = ServerNotFound,BadPassword, FailedDependencies
SKIPTARGET = NO
ONFAILEDDEPENDENCY=Omitcomponent
USE_SSHKEY=YES
[TARGETS]
HOST = <ip_address_1>
UID = <userid_1>
PRIVATEKEYFILE = c:\<keyfile_directory>
PASSPHRASE = <passphrase_string>
[END]
[TARGETS]
HOST = <ip_address_2>
UID = <userid_2>
PRIVATEKEYFILE = c:\<keyfile_directory>
PASSPHRASE = <passphrase_string>
```


管理エージェントインストールのパラメーター

管理エージェントがインストールされているかどうかを確認するには、SUMを使用してファームウェア詳細レポートを作成します。以下に例を示します。

- Linux : `$./smartupdate --firmware_report --s`
- Windows : `C:\smartupdate /firmware_report /s`

注記:

ノードにすでに管理エージェントがインストールされている場合は、新しいバージョンが公開されている場合、SUMは管理エージェントをアップグレードします。

たとえば、ノードにSNMPがインストールされている場合に `use_ams` パラメーターを使用すると、AMSがインストールされ、SNMPがアップグレードされます。

以下に、特定のコマンドを発行したときにSUMによって展開されるエージェントを示します。

管理エージェントのパラメーターを指定しない場合：

Gen8以降のサーバーがインストールされたエージェント：AMS

`--no_mgmt` (Linux) / `/no_mgmt` (Windows)

このパラメーターにより、SNMP、AMS、およびWBEMエージェントがすべてインストールまたはアップグレードされなくなります。システムにインストールされている管理エージェントには影響がありません。

Gen8およびGen9サーバーがインストールされたエージェント：なし

`--use_ams` (Linux) / `/use_ams` (Windows)

Gen8以降のサーバーがインストールされたエージェント：AMS

`--use_snmp` (Linux) / `/use_snmp` (Windows)

注記:

Gen10サーバーでは、SNMPエージェントがサポートされていません。

`/use_wmi` (Windowsのみ)

Gen8以降のサーバーがインストールされたエージェント：WBEM

注記:

Gen10サーバーでは、WBEMエージェントがサポートされていません。

`--use_ams --use_snmp` (Linux) / `/use_ams /use_snmp` (Windows)

Gen8およびGen9サーバーがインストールされたエージェント：AMSおよびSNMP

`/use_ams /use_wmi` (Windows)

Gen8およびGen9サーバーがインストールされたエージェント：AMSおよびWBEM

`/use_wmi /use_snmp` (Windows)

Gen8およびGen9サーバーがインストールされたエージェント：WBEMおよびSNMP

`/use_ams /use_wmi /use_snmp` (Windows)

Gen8およびGen9サーバーがインストールされたエージェント：AMS、SNMP、およびWBEM

Gen9のみ：SUMは、SNMPエージェントがインストールされる時にSMHテンプレートをインストールします。

SUM CLIパラメーター

SUMは、次のコマンドライン引数を認識します。 `--romonly`、 `--softwareonly` など、一部の引数は一緒に使用することはできません。

ヘルプ

CLIのヘルプを表示するには、`smartupdate --s --h` と入力します。

構文

`--h[elp]` または `--?` (Linux)

`/h[elp]` または `/?` (Windows)

説明

コマンドラインのヘルプ情報を表示します。

インストールパラメーター

次のセクションでは、アップデートのインストール時に使用できる属性について説明します。

強制

構文

`--f[orce]` (Linux)

`/f[orce]` (Windows)

説明

現在インストールされているソフトウェアを再書き込みまたはダウングレードします。このパラメーターの役割は、`f:software` と同じです。

オプション

`f[orce]:bundle`

選択されているバンドルに含まれ、現在インストールされているコンポーネントを再書き込みまたはダウングレードします。

`f[orce]:rom`

現在インストールされ、適用可能なファームウェアコンポーネントを再書き込みまたはダウングレードします（ファームウェアにのみ適用）。

`f[orce]:software`

現在インストールされ、選択されているソフトウェアコンポーネントを再書き込みまたはダウングレードします。

`f[orce]:all`

現在インストールされ、適用可能なソフトウェアおよびファームウェアコンポーネントを再書き込みまたはダウングレードします。

ダウングレード

構文

`--g` or `--downgrade` (Linux)

`/g` or `/downgrade` (Windows)

説明

現在インストールされているバージョンよりも低いバージョンを利用できる、インストール対象のコンポーネントを選択します。このコマンドを発行するとアップグレードも行われます。`rewrite`と組み合わせることができます。

再書き込み

構文

`--e or --rewrite` (Linux)

`/e or /rewrite` (Windows)

説明

インストールされているバージョンよりも低いバージョンを利用できる、インストール対象のコンポーネントを選択します。このコマンドを発行するとアップグレードも行われます。`downgrade`と組み合わせることができます。

ROM展開のみ

構文

`--romonly` (Linux)

`/romonly` (Windows)

説明

インストール対象とみなされるコンポーネントをファームウェアコンポーネントのみに制限します。
`softwareonly`と一緒に使用することはできません。`softwareonly`または`romonly`を使用しない場合、すべてのコンポーネントがインストール対象となる可能性があると考えられます。

ソフトウェア展開のみ

構文

`--softwareonly` (Linux)

`/softwareonly` (Windows)

説明

インストール対象とみなされるコンポーネントをソフトウェアコンポーネントのみに制限します。`romonly`と一緒に使用することはできません。`softwareonly` または `romonly` を使用しない場合、すべてのコンポーネントがインストール対象であるとみなされます。

使用するネットワークポート

構文

`--port <n>` (Linux)

`/port <n>` (Windows)

説明

SUMが内部HTTPサーバー用として使用するポートを63001から指定のポートに変更します。

SSLポート

構文

`--ssl_port <n>` (Linux)

`/ssl_port <n>` (Windows)

説明

SUMが内部HTTPSサーバー用として使用するポートを63002から指定のポートに変更します。

ファイアウォールのオープン

構文

`--open_firewall` (Linux)

`/open_firewall` (Windows)

説明

SUMに、外部アクセスにSUMで使用されるHTTPおよびHTTPSポートを開くことを許可します。リモートノード機能およびリモートブラウザーアクセスのためにポートを開くときにも使用します。

SUMは、`ip_tables`にDROPコマンドが含まれていても、ノードにアップデートを展開します。`open_firewall`を使用すると、DROPルールはバイパスされます。

入力ファイルを呼び出すコマンドにこのパラメーターを含めます。SUM入力ファイルは、ファイアウォールを開くパラメーターをサポートしていません。

サイレント展開

構文

`--s[ilent]` (Linux)

`/s[ilent]` (Windows)

説明

GUI CLI出力を伴わないサイレントインストールが行われます。データはすべてログファイルに書き込まれます。`express_install` パラメーターは `silent` パラメーターと組み合わせて使用しないでください。

使用方法

SUMでは、CLIコマンドにサイレントパラメーターが必要です。

展開するコンポーネントの指定

構文

```
--c[omponent]<component_to_install> または <component1_to_install>  
<component2_to_install> (Linux)
```

```
/c[omponent]<component_to_install> または <component1_to_install>  
<component2_to_install> (Windows)
```

説明

インストールするコンポーネントを指定します。

`c[omponent]` パラメーターを使用する場合は、パラメーターごとに1つの構成要素を指定します。複数の `c` パラメーターを、同じコマンドラインの個々のコンポーネントに含めることができます。

- `--c[omponent]` 引数を使用しない場合、複数のコンポーネントをスペースで区切り、コマンドライン上の他のすべての引数の後に指定します。
- デフォルトでは、SUMIは、コマンドに記載されている順序でコンポーネントを展開します。SUMIは、依存関係に基づいて展開の順序を変更します。
- 複数のコンポーネント (`--c[omponent]<component_to_install>` を参照) とバンドルを同一コマンドラインに指定します。1つのコマンドラインにコンポーネントとバンドルが混在する場合、フィルタースイッチによりインストールされるコンポーネントとバンドルが制御されます。
- SUMIは、コンポーネント名のみを使用します。完全なディレクトリパスを入力しても、SUMIはパスを無視します。`--use_location` および `c` を使用する場合、SUMIは、デフォルトのレポジトリと指定されたディレクトリの両方をチェックします。

5つより多くの構成要素を指定する場合は、複数のコマンドを発行するか、入力ファイルを使用します。

例

```
smartupdate --silent <other params> --save_install_set --install_set_name Test1 --  
c[omponent]<component1_to_install> (Linux)  
/smartupdate /silent <other params> /save_install_set /install_set_name Test1  
/c[omponent]<component1_to_install> (Windows)
```

インストールするバンドルの定義

構文

`--b[undle] <bundlename>` (Linux)

`/b[undle] <bundlename>` (Windows)

説明

この引数は、インストールするバンドルを指定します。

複数のコンポーネントとバンドル (`b[undle] <bundlename>` を参照) を同一コマンドラインに指定します。1つのコマンドラインにコンポーネントとバンドルが混在する場合、フィルタースイッチによりインストールされるコンポーネントとバンドルが制御されます。

ベースラインの場所の定義

構文

```
--use_location "[filepath]" (Linux)  
/use_location "filepath\"file_share" (Windows)
```

説明

SPPおよびコンポーネントを含むディレクトリまたはファイル共有がSUMで使用されるように指定します。SUMは、ターゲットのfile_shareがマッピング済みファイル共有またはUNC形式であることを要求します。

この引数を指定しない場合は、SUMは、SUMを含むディレクトリをデフォルトで使用します。

ログインしたアカウントでこの場所にアクセスできることを確認してください。この場所がUNCファイル共有である場合は、unc_usernameとunc_passwordを使用してファイル共有の認証情報を指定する必要があります。この認証情報を指定しない場合、SUMは現在の認証情報を使用して共有にアクセスします。

SUMでは、CLIモードでのhttpベースラインがサポートされていません。

コンポーネント構成のインポート

構文

```
--import_configuration <directory_path> (Linux)
```

```
/import_configuration <directory_path> (Windows)
```

説明

このパラメーターは、指定したベースライン内のコンポーネントのコンポーネント構成設定を含むディレクトリを示します。ベースライン内のコンポーネント構成は、インポートしたコンポーネント構成によって上書きされます。

UNCユーザー認証情報

構文

`/unc_username` (Windows)

説明

ファイル共有にアクセスするためのユーザー名認証情報。SUMでは、Windowsドメイン（たとえば、`domain1/userid1`）がサポートされています。



UNCパスワード認証情報

構文

`/unc_password` (Windows)

説明

ファイル共有にアクセスするためのパスワード認証情報。

管理エージェントコンポーネントなし

構文

`--no_mgmt` (Linux)

`/no_mgmt` (Windows)

説明

AMS、SNMP、およびWBEM Providerの管理コンポーネントが自動的に選択されていないことを示します。サイレントモードでは、SUMIは、どの管理コンポーネントもアップデートしません。

管理オプションについて詳しくは、[管理エージェントインストールのパラメーター](#)を参照してください。

SNMPエージェントコンポーネントの使用

構文

`--use_snmp` (Linux)

`/use_snmp` (Windows)

説明

Gen8およびGen9サーバー：SUMが自動的にSNMPコンポーネントをインストール対象に選択します。

Gen10サーバー：SUMは適用外としてSNMPコンポーネントを一覧表示します。

制限

LinuxおよびGen9のみ：SUMがSNMP RPMおよびsmh_templates RPMを選択します。

WMIエージェントコンポーネントの使用

構文

```
/use_wmi
```

説明

SUMが自動的にWBEMコンポーネントをインストール対象に選択します。

制限

WindowsおよびGen9のみ。

AMSエージェントコンポーネントの使用

構文

`--use_ams` (Linux)

`/use_ams` (Windows)

説明

(Gen8以降のみ) SUMが自動的にAMSコンポーネントをインストール対象に選択します。

高速インストール

構文

`--express_install` (Linux)

`/express_install` (Windows)

説明

GUIを起動し、Localhostガイド付きアップデートを自動モードで開始します。このパラメーターは、`silent` パラメーターを使用しているときは無視されます。

エラーを無視するパラメーター

以下の属性は、SUMがエラーを処理する方法を決定します。

SUMでは、これらの属性はコマンドに含まれているすべてのノードに適用されます。

TPMのバイパス

構文

`--tpmbypass` または `--ignore_tpm` (Linux)

`/tpmbypass` または `/ignore_tpm` (Windows)

説明

ターゲット iLO 5、Windows、Linux、または VMware ESXi で TPM を有効にした場合は、警告メッセージを無視し、コンポーネントのインストールを続行します。TPM については、Smart Update Manager ユーザーガイドを参照してください。

注記:

このパラメーターは、CLI コマンドの末尾で指定します。

警告の無視

構文

```
--ignore_warnings (Linux)
```

```
/ignore_warnings (Windows)
```

説明

SUMがノードに関する警告を受けた後でも、インストールの続行が許可されます。一部の警告は、次のとおりです。

- Serviceguardクラスターのアクティブメンバー このオプションを指定せず、ノードがServiceguardクラスターのアクティブなメンバーである場合、ノードはインストールフェーズまたは展開フェーズに入りません。
- TPMの警告
- Superdome X固有の警告
- 空きディスク領域の減少
- HPE OneViewで管理されるシステム
- 保留中iLOインストールキューの警告
- 例外タスクキューの警告
- iLO 5およびiSUTの警告

インストールの続行とエラーの無視

構文

```
--continue_on_error <error> (Linux)
```

```
/continue_on_error <error> (Windows)
```

説明

インストールが継続され、エラーが無視されます。

オプション

有効な値は、次のとおりです。

All

任意の種類のエラーを返すリモートノードをバイパスし、他のノードで展開を続行します。

ServerNotFound

`ServerNotFound` オプションを使用すると、ファームウェアまたはソフトウェアを複数のリモートホストに同時に展開する場合に、アクティブではない、または利用できないリモートホストをバイパスすることができます。

BadPassword

`BadPassword` オプションを使用すると、提供された認証情報が誤っていると報告されたりリモートノードをバイパスし、他のノードの処理を続行することができます。

FailedDependencies

`FailedDependencies` オプションを使用すると、失敗した依存関係のあるリモートノードをバイパスし、インストール準備ができて他のノードの処理を続行することができます。このパラメーターは、`on_failed_dependency:Force` または `:OmitComponent` を使用して上書きすることができます。

iLOCAEnabled

`iLOCAEnabled` オプションを使用して、iLOでCACモードが有効になっているノードをバイパスし、他のノードで続行します。iLO管理者認証情報は必要ありません。

iLOHighSecurityMode

`iLOHighSecurityMode` オプションを使用して、iLOで高セキュリティモードが有効になっているノードをバイパスし、他のノードで続行します。iLO管理者認証情報は必要ありません。

CHIFSignFailure

`CHIFSignFailure` オプションを使用して、CHIFドライバーコンポーネントの署名検証に失敗したときにノードをバイパスし、他のノードで続行します。

CHIFInstallFailure

`CHIFInstallFailure` オプションを使用して、CHIFドライバーのインストールに失敗したときにノードをバイパスし、他のノードで続行します。

既存の接続の無効化

構文

```
--override_existing_connection (Linux)
```

```
/override_existing_connection (Windows)
```

説明

SUMIに、進行中のセッションを無効化してリモートノードのインストールフレームワークを再初期化するよう指示します。

このパラメーターを指定しないと、SUMIは、SUMセッションがリモートノードですでに実行されている場合に、このノードをスキップします。

失敗した依存状態

構文

```
--on_failed_dependency (Linux)
```

```
/on_failed_dependency (Windows)
```

説明

このパラメーターには、失敗した依存関係が発生したときにコンポーネントを省略するか、ホストへのインストールをスキップするオプションがあり、SUMはインストールを試行しません。

オプション

OmitHost (デフォルト)

ターゲットが障害状態に設定されるため、インストールは試行されません。

OmitComponent

影響を受けるコンポーネントの選択が解除され、失敗した依存状態が発生していないアップデートによってプロセスが進められます。

Force

依存状態に障害があっても、すべてのアップデートが試行されます。

サンプル

```
--on_failed_dependency:OmitHost (Linux)
```

```
/on_failed_dependency:OmitHost (Windows)
```

```
--on_failed_dependency:OmitComponent (Linux)
```

```
/on_failed_dependency:OmitComponent (Windows)
```

```
--on_failed_dependency:Force (Linux)
```

```
/on_failed_dependency:Force (Windows)
```

再起動パラメーター

以下の属性は、SUMが再起動を実行する方法を決定します。

再起動

構文

`--r[eboot]` (Linux)

`/r[eboot]` (Windows)

説明

サーバー（リモートインストールではホストサーバー）は、次の条件で再起動します。

- `reboot` オプションを選択するか、そのオプションをコマンドライン引数内で使用する場合。
- インストール用に選択されたすべてのコンポーネントが正常にインストールされた場合。
- インストールされたコンポーネントのうち少なくとも1つで、インストールを完了するために再起動が必要な場合。

再起動メッセージ

構文

```
--reboot_message "reboot message" (Linux)
```

```
/reboot_message "reboot message" (Windows)
```

説明

再起動するサーバーに接続されているリモートコンソールに、指定した再起動メッセージを表示します。このパラメーターは `reboot` オプションと組み合わせて使用してください。そうでない場合は無視されます。



注記:

SLES12 OSイメージにはcliコマンドとしてパラメーターを実行できないという制約があるため、`reboot_message` cliパラメーターはSLES12 OSでは機能しません。

再起動遅延

構文

```
--reboot_delay timeout_in_secs (Linux)
```

```
/reboot_delay timeout_in_secs (Windows)
```

説明

`timeout_in_secs` 変数で指定された時間だけ、サーバーの再起動を遅らせます。

デフォルトは60秒です。

Linuxシステムでは、再起動遅延の時間は秒単位から分単位に変換され、1分未満（59秒以下）の値は切り上げられます。

オプション

15～3600までの値を指定できます。

要件

この引数は `reboot` オプションと組み合わせて使用してください。そうでない場合は無視されます。

常に再起動

構文

`--reboot_always` (Linux)

`/reboot_always` (Windows)

説明

SUMIは、このコマンドラインオプションが渡されると常にサーバーを再起動します。

実行パラメーターのテスト

構文

`--dryrun` (Linux)

`/dryrun` (Windows)

説明

この属性をその他の属性とともに使用し、実際の展開を除いてコマンドのすべてのプロセスをSUMで実行します。このパラメーターを使用して、リモートノードの接続と構成を確認し、SUMが何をアップデートするかを確認します。

要件

この引数は、テスト実行用にインストールをシミュレーションします。SUMは、どのアップデートも展開しません。

ノードパラメーター

以下の属性は、ノードのアップデートオプションを定義します。属性を指定するときに、ターゲットノードを指定してから属性を指定します。ターゲットノードの前に属性を指定しないでください。

以下に例を示します。

有効例：

```
smartupdate /s /target 10.0.1.2 /user root /password root
```

無効例：

```
smartupdate /s /user root /password root /target 10.0.1.2
```

グローバル属性を、属性を指定しないノードに適用できます。属性を適用する1つのターゲットノードとともに、コマンドラインの最後にグローバル属性を記述します。以下に例を示します。

```
smartupdate /s /target 10.0.1.3 /target 10.0.1.4 /target 10.0.1.5 /user root /password root
```

以下の属性は、グローバルに使用できます。

username/user、password/passwd、use_location、current_credential、su_username、su_password、use_sshkey、vcenter_host、vcenter_username、および vcenter_password。

ユーザー名

構文

`--user <username>`または `--username <username>` (Linux)

`/user <username>`または `/username <username>` (Windows)

説明

ユーザーIDを使用してリモートノードにログインする場合は、この引数を使用します。

要件

ユーザー名がrootまたは管理者グループに属していることを確認してください。

SUMでは、Windowsドメイン（たとえば、`domain1\userid1`）がサポートされています。

Windowsドメインの一部であるLinuxノードを管理している場合は、次の形式を使用します。

`<domain>\<username>`

ユーザーパスワード

構文

`--password` <password> (Linux)

`/password` <password> (Windows)

smartupdateは、`passwd` と `pwd` もサポートします (Windows)

説明

`user` パラメーターで指定したユーザーIDのパスワード。システムはリモートノードへのログインにこのパスワードを使用します。

iLOユーザー名

構文

```
--ilo_username <username> (Linux)
```

```
/ilo_username <username> (Windows)
```

説明

サーバーのiLOが高セキュリティモードで構成されている場合、ホストOSからiLOに接続するには、このパラメーターを使用します。iLO管理者の認証情報を入力します。

このパラメーターが有効なのは、Windows、Linux、および不明のノードタイプに対してのみです。

要件

iLO管理者アカウントにiLO設定の構成の許可が付与されていることを確認してください。

iLOパスワード

構文

`--ilo_password` <password> (Linux)

`/ilo_password` <password> (Windows)

説明

`ilo_username` パラメーターで指定されたiLOユーザー名に関連付けられたパスワード。

SSHキーファイルの使用

構文

`--use_sshkey` (Linux)

`/use_sshkey` (Windows)

説明

SSHキーを使用して、Linuxノードに接続します。SUMIは、他のタイプのノードについては、このパラメーターを無視します。

このパラメーターを指定する場合、SUMIはプライベートキーファイルの場所を必要とします。キーファイル（PEM形式）は、ユーザーが渡すことができるオプションのパラメーターです。

プライベートキーファイルの場所

構文

```
privatekeyfile
```

```
smartupdate /target 10.0.1.2 /user root /use sshkey  
privatekeyfile=c:<keyfile_directory/ssh.pem> /r /s
```

説明

専用のSSHキーファイルが生成されている場合、SUMIによって、パスフレーズが必要であることが自動的に検出され、その入力が求められます。

要件

`use_sshkey` パラメーターとともに使用します。

SSHパスワード

構文

```
passphrase
```

説明

このオプションを使用して、パラメーター `use_sshkey` とともに使用するパスワードと、オプションの `privatekeyfile` を指定します。

パスワードがキーファイルによって要求されるときに、パラメーターとして指定されていない場合、SUMIはパスワードの入力を求めます。

```
smartupdate /target 10.0.1.2 /user root use_sshkey  
privatekeyfile=c:/<keyfile_directory/ssh.pem> passphrase=12345 /r /s
```

要件

`use_sshkey` パラメーターとともに使用します。



スーパーユーザー名

構文

`--su_username` (Linux)

`/su_username` (Windows)

説明

`username` および `passwd` で指定された認証情報にコンポーネントをアップデートするためのroot権限がない場合、リモートノードでroot（スーパーユーザー）ユーザー名を使用してセッションを開始し、コンポーネントのインベントリとアップデートを実行します。

ローカルホストでは、このコマンドを使用しないでください。

スーパーユーザーのパスワード

構文

```
--su_password (Linux)
```

```
/su_password (Windows)
```

説明

`username` および `passwd` で指定された認証情報にコンポーネントをアップデートするためのroot権限がない場合、リモートノードでroot（スーパーユーザー）ユーザー名を使用してセッションを開始し、コンポーネントのインベントリとアップデートを実行します。

ローカルホストでは、このコマンドを使用しないでください。suを使用してローカルホスト上でSUMを起動するには、次の例を使用します。

```
su root
```

```
smartupdate --s --f --use_location /mnt/spp
```

sudo認証情報の使用

構文

`--use_sudo` (Linux)

`/use_sudo` (Windows)

説明

リモートノードのusernameとpasswordがsudoユーザーの認証情報であることを指定します。

要件

`username` および `passwd` と併用すると、両方のパラメーターがsudoユーザー認証情報であることを示します。

ターゲットアドレスの定義

構文

`--target` “netAddress” (Linux)

`/target` “netAddress” (Windows)

説明

リモートサーバー、リモートのiLO NICポート、c-Class BladeSystem用のVirtual Connect Ethernetもしくはファイバーチャネルモジュール、またはBladeSystem OAとなりうるリモートホストのIPアドレスまたはDNS名です。

2つのOAがエンクロージャー内にあるときは、アクティブなOAを引数として使用します。IPアドレスを指定する場合は、IPv4またはIPv6形式を使用します。

VCノードを追加する場合は、プライマリEnetモジュールのIPアドレスを使用します。

ターゲットタイプの定義

構文

`--targettype` “type” (Linux)

`/targettype` “type” (Windows)

説明

スクリプト展開のインベントリ時間を短縮します。これはオプションのコマンドライン引数です。

設定可能な値

Windows

Linux

iLO

fc_switch

oa

`virtual_connect` - プライマリVC EnetモジュールのIPアドレスを使用します。

`sas_switch`

VMware

sdx

sdflex

`targettype` は、`target` パラメーターと一緒に使用してください。`targettype` と `target` の順番は入れ替え可能です。ノード名にスペースが含まれる場合は、引用符 “ ” で名前を囲ってください。

ユーザーの現在の認証情報

構文

`/current_credential` (Windowsのみ)

説明

ローカルホストの認証情報を使用してノードにアクセスでき、ノードごとに明示的にユーザー名とパスワードを入力する必要がなくなります。処理しているノードで現在の認証情報が有効であることが前提です (Windowsノードにのみ適用)。

OAユーザー名

構文

`--oa_username` (Linux)

`/oa_username` (Windows)

説明

`target` コマンドを使用して指定したVCターゲットのOAユーザー名認証情報を指定します。コマンドラインパラメーターを使用すると、1組のOA認証情報しか指定できません。`target` パラメーターを使用して複数のVCノードを追加するには、指定のそれぞれのVCでOA認証情報が同一であることを確認してください。VCに関連付けられたOAネットワークアドレスを提供する必要はありません。SUMは、指定したVCノードからOAネットワークアドレスを取得します。

さまざまな認証情報を持つOAでVCをアップデートするには、対応する `oa_username` および `oa_password` を使用します。

OAユーザーのパスワード

構文

`--oa_password` (Linux)

`/oa_password` (Windows)

説明

targetコマンドを使用して指定したVCに関連するOAのパスワード認証情報を提供します。コマンドラインパラメーターには、ただ1組のOA認証情報しか指定できません。指定したVCに関連するOAの認証情報が同じ場合のみ、“node”パラメーターでコマンドラインパラメーターに複数のVCノードを追加します。VCに関連付けられたOAネットワークアドレスを提供する必要はありません。SUMIは、指定したVCノードからOAネットワークアドレスを取り出します。

さまざまな認証情報を持つOAでVCをアップデートするには、対応する `oa_username` および `oa_password` を使用します。

FIPSモードでのVCの有効化

構文

`--encryption_key` (Linux)

`/encryption_key` (Windows)

説明

このパラメーターを使用して、FIPS対応VCの暗号化キーを指定します。

指定可能な値

最小8文字の文字列。



VC-Enetモジュールの有効化順序

構文

`--ethactorder` (Linux)

`/ethactorder` (Windows)

説明

VC-Enetモジュールの有効化順序を設定するには、このコマンドを使用します。

設定可能な値

`ODDEVEN` (デフォルト)

`PARALLEL`

`SERIAL`

`MANUAL`



VC-FC有効化順序

構文

`--fcactorder` (Linux)

`/fcactorder` (Windows)

説明

VC-FCの有効化順序を設定するには、このコマンドを使用します。

設定可能な値

`ODDEVEN`

`PARALLEL`

`SERIAL` (デフォルト)

`MANUAL`



VC-Enetの有効化とrebootオプション

構文

`--ethactdelay` (Linux)

`/ethactdelay` (Windows)

説明

VC-Enetモジュールの有効化または再起動の間の時間を分単位で設定するには、このコマンドを使用します。

設定可能な値

最大で60分。デフォルトは0分。



VC-FCの有効化とrebootオプション

構文

`--fcactdelay` (Linux)

`/fcactdelay` (Windows)

説明

VC-FCモジュールの有効化または再起動の間に待機する時間を指定するには、このコマンドを使用します。

設定可能な値

最大で60分。デフォルトは0分。

VCenterホスト

構文

`--vcenter_host` (Linux)

`/vcenter_host` (Windows)

説明

VMware vCenterのIPアドレスを入力します。

ロックダウンモードになっているVMware vCenterノードからチケットを生成するには、VMware ESXiノードでこのコマンドを使用します。このコマンドは、コマンドライン内のすべてのターゲットに適用されます。VMware以外のノードの場合、このコマンドは無視されます。

VCenterユーザー名

構文

`--vcenter_username` (Linux)

`/vcenter_username` (Windows)

説明

ユーザー名を入力し、VMware vCenterにログインします。詳しくは、`vcenter_host`を参照してください。

VCenterのパスワード

構文

`--vcenter_password` (Linux)

`/vcenter_password` (Windows)

説明

パスワードを入力し、VMware vCenterにログインします。詳しくは、`vcenter_host`を参照してください。

iLO 5のパラメーター

インストールセットの保存

構文

```
--save_install_set (Linux)
/save_install_set (Windows)
```

説明

このパラメーターは、iLO 5レポジトリにインストールセットを保存します。

インストールセットの名前

構文

```
--install_set_name (Linux)
/install_set_name (Windows)
```

説明

このパラメーターは、iLO 5レポジトリに指定された名前を使用してインストールセットを保存します。

インストールセットの説明

構文

```
--install_set_description (Linux)
/install_set_description (Windows)
```

説明

このパラメーターは、iLO 5レポジトリに指定された説明を使用してインストールセットを保存します。

欠落しているコンポーネント署名のスキップ

構文

```
--skip_missing_compsig (Linux)
/skip_missing_compsig (Windows)
```

説明

ノード全体の展開を停止する代わりに、コンポーネントの署名が欠落しているコンポーネントをスキップします。

iLOレポジトリの手動管理

構文

```
--manually_manage_ilo_repository (Linux)
/manually_manage_ilo_repository (Windows)
```

説明

自動的に管理する代わりに、手動でiLOレポジトリを管理します。

注記:

デフォルトは自動です。つまり、SUMでアップロードされた新しいコンポーネントを収容する領域がiLO NANDにない場合、SUMは（コンポーネントの合計サイズに基づいて）最小サイズのインストールセットを削除し、新しいコンポーネントおよびインストールセット用の領域を作成します。

保存されたiLOの使用

構文

```
--use_ilo_saved (Linux)
/use_ilo_saved (Windows)
```

説明

ベースラインとしてiLOレポジトリに保存されたインストールセットを使用します。SUMは、このインストールセットをiLO NANDで呼び出し、展開時に結果のタスクキューを処理します。



iL0のスキップ

構文

`--skip_ilo` (Linux)

`/skip_ilo` (Windows)

説明

このコマンドは、インストールセットからiLO Smartコンポーネントを削除するようSUMに指示します（EFMのみ）。



前提条件のスキップ

構文

`--skip_prereqs` (Linux)

`/skip_prereqs` (Windows)

説明

SUMは、セルフインベントリ時のドライバーコンポーネントなどの前提条件のコンポーネント、インストールされているバージョンを最小アクティブバージョンにする必要がある場合のファームウェアの前提条件のコンポーネント、CHIFドライバーを、リモートWindowsノードにインストールしません。

制限

CHIFドライバーのインストールは、Windowsノードでのみ有効です。

ログファイルのパラメーター

以下の属性は、SUMがログファイルを作成する方法を決定します。

ログパラメーター

ログディレクトリ

構文

```
--logdir "path" (Linux)
```

```
/logdir "path" (Windows)
```

説明

SUMからの出力をデフォルトディレクトリ以外のディレクトリにリダイレクトします。

Windowsシステムで実行されているSUMの場合、デフォルト位置は `%SYSTEMDRIVE%\CPQSYSTEM\sum\log\
<netAddress>` で、リダイレクト先は `<path>\sum\log\
<netAddress>` です。

SUMは、コンポーネントを処理するときに `%SYSTEMDRIVE%\CPQSYSTEM\
ディレクトリを作成します。SUMは、リダイ
レクトされたディレクトリに smartupdate_log.txt、smartupdate_detail_log.txt、およ
び smartupdate_InstallDetails.txt ファイルのみを書き込みます。SUMは、その他のログをデフォルトディレ
クトリに書き込みます。`

Linuxシステムで実行されているSUMの場合、デフォルト位置は `/var/log/sum/<netAddress>` で、リダイレクト先
は `<path>/log/sum/<netAddress>` です。

デバッグログディレクトリ

構文

```
--debuglogdir [directory_path] (Linux)
```

```
/debuglogdir [directory_path] (Windows)
```

説明

このパラメーターは、デバッグログファイルが保存されるSUMのディレクトリを割り当てます。

終了時にクリーンアップ

構文

```
--cleanup_onexit (Linux)
```

```
/cleanup_onexit (Windows)
```

説明

このパラメーターは、ターゲットおよびホストから以下のものを削除します。

- Linuxフォルダー `/usr/lib/i386-linux-gnu/*` または `/usr/lib/x86_64-linux-gnu` にコピーされたファームウェアRPM。
- 抽出されたファームウェアRPMディレクトリとフォルダーの内容。
- ベースラインインベントリの実行中に抽出されたコンポーネント。
- SUMが読み取り専用の場所から起動される場合、このパラメーターは「localsum」ディレクトリを削除します。



注記:

このパラメーターでは、デバッグログファイルは削除されません。

終了時にすべてのログをクリーンアップ

構文

```
--cleanupall_onexit (Linux)
```

```
/cleanupall_onexit (Windows)
```

説明

このパラメーターは、ターゲットおよびホストからすべてのファイル（デバッグファイルを含む）を削除します。このパラメーターでは、ユーザーのログは削除されません。

冗長レベルのログ記録

構文

`--v[erbose]` または `--veryv[erbose]` (Linux)

`/v[erbose]` または `--veryv[erbose]` (Windows)

説明

SUM実行ログファイル `sum_execution_log_*.log` の冗長レベルを設定します。ログファイルに維持される詳細レベルを上げることができます。デフォルトは通常の冗長レベルです。

レポートパラメーター

注記:

統合レポートとインストール済みレポートは、展開の完了後にのみ生成できます。

SUMはコマンドライン引数を使用して、指定されたシステムまたはリポジトリ位置に関するレポートを生成します。コマンドラインにその他の場所を指定しない場合は、SUMでローカルホストとデフォルトのリポジトリ位置（SUMが起動されたディレクトリ）が使用されます。適切な認証情報を提供する場合は、ノードを指定します。他のコマンドラインパラメーターを使用してリポジトリを指定し、レポートを生成します。特定のコマンドについては、[SUM CLIパラメーター](#)を参照してください。

SUMは、JavaScript対応Webブラウザで表示できるXMLまたはHTMLファイルとしてレポートを生成するか、CSV形式をサポートする任意のアプリケーションで開くことができるCSV形式のレポートを生成します。

HTML形式のレポートは、`SUM_<タイプ>_Report_<日付>_<時刻>` という名前のディレクトリに生成されます。

デフォルトの場所は、SUMが起動された現在のワーキングディレクトリです。この場所が書き込み禁止になっている場合、SUMはレポートをSUMログファイルと同じディレクトリに保存します。SUMがレポートを保存できる別のディレクトリを指定するには、`reportdir` パラメーターを使用します。

SUMレポートファイルは次のデフォルトのディレクトリにあります。

Windows : `C:\cpqsystem\sum\log`

Linux : `/var/log/sum`

SUMがレポートを生成するときに、SUM GUIは表示されません。SUMに、生成されたレポートのファイルの場所が表示されます。

ノード概要レポートの生成

構文

`--report` (Linux)

`/report` (Windows)

説明

ノードの概要、およびレポジトリ内のコンポーネントがノードに与える影響について説明した展開プレビューレポートを生成します。たとえば、各コンポーネントがノードに適用されるかどうかなどです。レポートはHTML、XML、およびCSV形式で生成され、`SUM_Deploy_preview_Report_<日付>_<時刻>.html`、`SUM_Deploy_preview_Report_<日付>_<時刻>.xml`、および `SUM_Deploy_preview_Report_<日付>_<時刻>.csv` というファイル名が付けられます。

SUMは、インベントリを実行し、レポートを生成してから終了します。どのアップデートも展開しません。

インベントリレポジトリレポートの生成

構文

`--inventory_report` (Linux)

`/inventory_report` (Windows)

説明

指定されたレポジトリ内のコンポーネントをリスト表示するレポートを生成します。レポートはHTML、XML、およびCSV形式で生成され、`SUM_Inventory_Report_<日付>_<時刻>.html`、`SUM_Inventory_Report_<日付>_<時刻>.xml`、および `SUM_Inventory_Report_<日付>_<時刻>.csv` というファイル名が付けられます。

SUMは、インベントリを実行し、レポートを生成してから終了します。どのアップデートも展開しません。

インストール済みファームウェアレポートの生成

構文

`--firmware_report` (Linux)

`/firmware_report` (Windows)

説明

インストール済みファームウェアとソフトウェアのリスト、およびノードの詳細を示すレポートを生成します。レポートはHTML、XML、およびCSV形式で生成され、`SUM_Firmware_Report_<日付>_<時刻>.<形式>` というファイル名が付けられます。ここで、`<形式>` は `.html`、`.xml`、および `.csv` です。

SUMは、インベントリを実行し、レポートを生成してから終了します。どのアップデートも展開しません。

失敗した依存関係のレポートの生成

構文

```
--dependency_report (Linux)
```

```
/dependency_report (Windows)
```

説明

すべてのノードの失敗した依存関係をリスト表示するレポートを生成します。レポートはHTML、XML、およびCSV形式で生成され、`SUM_FailedDependency_Report_<日付>_<時刻>.html`、`SUM_FailedDependency_Report_<日付>_<時刻>.xml`、および `SUM_FailedDependency_Report_<日付>_<時刻>.csv` というファイル名が付けられます。

SUMは、インベントリを実行し、レポートを生成してから終了します。どのアップデートも展開しません。

インストール済みアップデートレポートの生成

構文

`--installed_report` (Linux)

`/installed_report` (Windows)

説明

SUMのこのセッション中に、すべてのノードにインストールされているすべてのファームウェア、ソフトウェア、およびドライババージョンをリスト表示するレポートが生成されます。レポートはHTML、XML、およびCSV形式で生成され、`SUM_Installed_Report_<日付>_<時刻>.html`、`SUM_Installed_Report_<日付>_<時刻>.xml`、および `SUM_Installed_Report_<日付>_<時刻>.csv` というファイル名が付けられます。

SUMは、ノードのインベントリを作成し、アップデートを展開してから、レポートを生成します。

結合レポートの生成

構文

```
--combined_report (Linux)
```

```
/combined_report (Windows)
```

説明

このレポートは、1つのファイルにすべてのレポートタイプを生成します。レポートはHTML、XML、およびCSV形式で生成され、SUM_Combined_Report_<日付>_<時刻>.html、SUM_Combined_Report_<日付>_<時刻>.xml、およびSUM_Combined_Report_<日付>_<時刻>.csv というファイル名が付けられます。

SUMは、ノードのインベントリを作成し、アップデートを展開してから、レポートを生成します。

レポートディレクトリ

構文

`--reportdir` (Linux)

`/reportdir` (Windows)

説明

SUMのレポートの保存先ディレクトリを指定するには、すべてのレポートコマンドでこのパラメーターを使用します。

例: `smartupdate --report --reportdir /etc/user/reports`

入力ファイルのパラメーター

複数のノードか個々のノード、またはノードグループのアップデートのスクリプトを作成するには、次のパラメーターを使用します。

入力ファイルの使用

構文

`--inputfile` “filename” (Linux)

`/inputfile` “filename” (Windows)

説明

このパラメーターがファイル名で使用されている場合、SUMIは展開を実行するために、ファイルの内容を使用してターゲットおよびベースラインのリストを生成します。詳しくは、[入力ファイルのセクション](#)を参照してください。

入力ファイルの削除

構文

`--deleteinputfile` (Linux)

`/deleteinputfile` (Windows)

説明

SUMIに、入力ファイルを読み取り後に削除するように指示します。



Superdome Xサーバーのコマンド

以下の属性は、Superdome Xサーバーに適用されます。



ファームウェアのアップデートタイプ

構文

```
--update_type <type> (Linux)
```

```
/update_type <type> (Windows)
```

説明

どのSuperdome Xファームウェアをアップデートするかを決定します。

オプション

```
ALL (デフォルト)
```

```
COMPLEX
```

```
PARTITIONS
```

例

```
update_type PARTITIONS
```

特定デバイスのアップデート

構文

```
--device_list <device[, device]...> (Linux)
```

```
/device_list <device[, device]...> (Windows)
```

説明

`update_type` 引数が `PARTITIONS` の場合は、この引数を使います。この引数は、全部のパーティションや未割り当てのブレードをアップデートしたくない場合に、アップデートするパーティションのサブセットや未割り当てのブレードを指定します。

オプション

```
npar (number)
```

```
blade (enc) / (bay)
```

パラメーターの間にスペースを入れないでください。

例

```
device_list npar1,npar2,blade1/1,blade1/2
```

パーティションrebootオプション

構文

```
--reboot_list <npar[, npar]...> (Linux)
```

```
/reboot_list <npar[, npar]...> (Windows)
```

説明

update_type が ALL または PARTITIONS の場合は、この引数を使います。この引数は、パーティションファームウェアがアップデートされた後に再起動する特定のパーティションを指定します。

オプション

npar 値は npar (number) です。パラメーターの間にスペースを入れしないでください。

例

```
reboot_list npar1,npar2
```

リターンコード

SUMIはLinuxとWindows smartコンポーネントのリターンコードを、拡張されたリターンコードマッピングに統合しました。これらのリターンコードは、コンポーネントインストールのステータスを決定します。また、スクリプトのリターンコードを使用して、スクリプトの実行を制御したり、必要な分岐を決定したりできます。

Linuxでは、負のリターンコードは、256から値を引くことにより、正のリターンコードに再計算されます。

SUCCESS_NO_REBOOT

Linux : 0

Windows : 0

テキスト : The installation was successful. (インストールに成功しました。)

SUCCESS_REBOOT

Linux : 1

Windows : 1

テキスト : The installation was successful, but a reboot is required. (インストールに成功しましたが、再起動が必要です。)

SUCCESS_NOT_REQUIRED

Linux : 3

Windows : 3

テキスト : The component was current or not required. (このコンポーネントは最新であるか、または不要です。)

FAILURE_GENERAL

Linux : 255

Windows : -1

テキスト : A general failure occurred. (一般障害が発生しました。) For details, see the error log. (詳しくは、エラーログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM

Linux : 254

Windows : -2

テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。)

FAILURE_COMPONENT_FAILED

Linux : 253

Windows : -3

テキスト : The installation of the component failed or was blocked by a failed dependency. (コンポーネントのインストールが失敗したか、失敗した依存関係によってブロックされました。)

FAILURE_COMMAND_FAILED

Linux : 252

Windows : -4

テキスト : The CLI command execution failed. (CLIコマンドの実行に失敗しました。)

Windows Smartコンポーネントのリターンコード

0
Smartコンポーネントはインストールされませんでした。詳しくは、ログファイルを参照してください。

1
Smartコンポーネントのインストールに成功しました。

2
Smartコンポーネントのインストールは成功しましたが、システムを再起動する必要があります。

3
必要なハードウェアが存在しないか、ソフトウェアが最新のものか、利用可能でないか、インストールするものがないためインストールは試行されませんでした。

Linux SmartコンポーネントのリターンコードとファームウェアRPMのリターンコード

0

Smartコンポーネントのインストールに成功しました。

1

Smartコンポーネントのインストールは成功しましたが、システムを再起動する必要があります。

2

必要なハードウェアが存在しないか、ソフトウェアが最新のものか、インストールするものがないためインストールは試みられませんでした。

3

必要なハードウェアが存在しないか、ソフトウェアが最新のものか、利用可能でないか、インストールするものがないためインストールは試行されませんでした。

4

このリターンコードは、OAを始めとするネットワークベースの装置などのリモートノードにコンポーネントをインストールする場合に表示され、ノードが見つからないことを示します。

5

インストールが開始する前に、ユーザーによってインストールが取り消されました。

6

依存関係が満たされていないかまたはインストールツールに問題があるため、インストーラーを実行できません。

7

インストールツールに問題はありますが、実際のインストール操作が失敗しました。

LinuxソフトウェアRPMのリターンコード

0

Linux RPMのインストールに成功しました。

1

Linux RPMのインストールに失敗しました。

VMware ESXi Smartコンポーネントのリターンコード

0

提供できるコンポーネントのインストールは成功しました。リブートは不要です。

1

提供できるコンポーネントのインストールは成功しました。インストールしたコンポーネントを有効にするために、再起動が必要です。

2

インストール予定のバージョンと既存のバージョンが一致するため、インストールは試みられませんでした。

3

次のいずれかの理由により、インストールは試みられませんでした。

- インストール予定のバージョンが、インストールされているバージョンより古い
- サポートされているハードウェアが存在しないか、有効になっていないか、またはインストールを試みることができない状態にある
- Smartコンポーネントが環境をサポートしない

4

このリターンコードは、OAを始めとするネットワークベースの装置などのリモートノードにコンポーネントをインストールする場合に表示され、ノードが見つからないことを示します。

5

インストールが開始する前に、ユーザーによってインストールが取り消されました。

6

依存関係が満たされていないかまたはインストールツールに問題があるため、インストーラーを実行できません。

7

インストールツールに問題はありますが、実際のインストール操作が失敗しました。

入力ファイルにおけるコンポーネント固有の構成

入力ファイルのコンポーネントの短い名前を使用して、コンポーネント構成を定義します。コンポーネントのファイル名は、リリースで変更される可能性があります。ファイル名を表示するには、SPPのリリースノートを参照してください。

hpsmh-windows-x64

HP System Management Homepage for Windows x64

hpinsightmgmtwbemprovider-windows-x64

HP Insight Management WBEM Provider for Windows Server x64 Edition

hpinsightmgmtagent-windows-x64

HP Insight Management Agents for Windows Server x64 Editions

hpmouse-linux

HP iLO High-Performance Mouse for Linux

hpsmh-linux-x64

HP System Management Homepage for Linux (AMD64/EM64T)

hpsnmpagent-rhel6-x64

HP SNMP Agents for Red Hat Enterprise Linux 6 (AMD64/EM64T)

hpsnmpagent-sles11-x64

HP SNMP Agents for SUSE Linux Enterprise Server 11 (AMD64/EM64T)

hpsnmpagent-rhel5-x64

HP SNMP Agents for Red Hat Enterprise Linux 5 (AMD64/EM64T)

hpsnmpagent-rhel7-x64

HP SNMP Agents for Red Hat Enterprise Linux 7 (AMD64/EM64T)

hpsnmpagent-sles12-x64

HP SNMP Agents for SUSE Linux Enterprise Server 12 (AMD64/EM64T)

hpqlogic-smartsan-windows-x64

HPE QLogic SmartSAN Enablement Kit for Windows 64 bit Operating Systems

hpemulex-smartsan-windows-x64

HPE Emulex SmartSAN Enablement Kit for Windows 64 bit Operating Systems

hpemulex-smartsan-linux

Emulex SmartSAN Enablement Kit for Linux

hpqlogic-smartsan-linux

QLogic SmartSAN Enablement Kit for Linux

入力ファイルでのコンポーネントの構成

```
[COMPONENT_CONFIG=<component short name>]
```

```
[<PARAM_NAME1>]
```

```
Value1-line1
```

```
Value1-line2
```

```
[<PARAM_NAME1>]
```

```
Value1-line1
```

```
Value1-line2
```

```
[END_COMPONENT_CONFIG]
```

入力ファイルのエンコードについて

入力ファイルにUTF-8形式を使用します。UTF-8では、ダブルバイト文字を使用できません。

エラーのレポート

入力ファイルでエラーが発生すると、SUMIは、-2という値（不良パラメーター）を返して終了します。エラーの発生場所や性質は、ログファイル `smartupdate_execution_log_<date>_<time>.raw` で調べます。

入力ファイルのパラメーター

入力ファイルを使用する場合は、ターゲットノードおよび使用するベースラインを含める必要があります。ベースラインが含まれているディレクトリでSUMを実行する場合、SUMはデフォルトでそのディレクトリにあるベースラインを使用します。

以下の属性はセッションに関連しており、1回のみ使用できます。

セッションの属性

BUNDLESLIST

設定可能な値：

<bundlefilename>

バンドルファイル名

指定されたベースラインの場所に複数のバンドルファイルがある場合に、アップデート対象として考慮されるバンドルxmlファイルのリスト。

CLEANUPALLONEXIT

設定可能な値：

YES、デフォルト = NO

このパラメーターは、すべてのファイル（デバッグファイルを含む）を削除します。このパラメーターでは、ユーザーのログは削除されません。

CLEANUPONEXIT

設定可能な値：

YES、デフォルト = NO

このパラメーターは、以下のものを削除します。

- Linuxフォルダー /usr/lib/i386-linux-gnu/* または /usr/lib/x86_64-linux-gnu にコピーされたファームウェアRPM。
- 抽出されたファームウェアRPMディレクトリとフォルダーの内容。
- ベースラインインベントリの実行中に抽出されたコンポーネント。
- SUMが読み取り専用の場所から起動される場合、このパラメーターは「localsum」ディレクトリを削除します。



注記：

このパラメーターでは、デバッグログファイルは削除されません。

COMBINED_REPORT

設定可能な値：

YES、NO

このレポートは、1つのファイルにすべてのレポートタイプを生成します。

SUMは、インベントリを実行し、アップデートを展開し、レポートを生成してから終了します。

SUMがレポートを保存する場所については、[レポートパラメーター](#)を参照してください。

COMPONENTSLIST

設定可能な値：

ファイル拡張子（.exe、.rpm、または.scexe）の付いたコンポーネント名

アップデートするコンポーネントのリストを制限します。

DEBUGLOGDIR

設定可能な値：

<directorypath>

デバッグファイルを保存する場所をSUMに指示します。

DELETEINPUTFILE

設定可能な値：

YES、デフォルト = NO

SUMに、入力ファイルを読み取り後に削除するように指示します。

DEPENDENCY_REPORT

設定可能な値：

YES、NO

すべてのノードの失敗した依存関係をリスト表示するレポートを生成します。

SUMは、インベントリを実行し、レポートを生成してから終了します。アップデートを展開しません。

SUMがレポートを保存する場所については、レポートパラメーターを参照してください。

DEVICELIST

設定可能な値：

以下に例を示します。DEVICELIST=npar1,blade1/1

パラメーターの間にスペースを入れしないでください。

Superdome Xサーバーの場合のみ、UPDATETYPEをPARTITIONSに設定するときはこの引数を使用します。この引数は、全部のパーティションをアップデートしたくない場合に、アップデートするパーティションやブレードを指定します。有効なデバイスは、npar (number) と blade (enc) / (bay) です。

DOWNGRADE

設定可能な値：

YES、NO

現在インストールされているバージョンよりも低いバージョンを利用できる、インストール対象のコンポーネントを選択します。これは、アップグレードとは別の機能です。rewriteと組み合わせることができます。

DRYRUN

設定可能な値：

YES、NO

テスト実行用にインストールをシミュレーションします。何もインストールされません。

FIRMWARE_REPORT

設定可能な値：

YES、NO

インストール済みファームウェアとインストール済みソフトウェアのリスト、およびノードの詳細を示すレポートを生成します。

SUMは、インベントリを実行し、レポートを生成してから終了します。アップデートを展開しません。

SUMがレポートを保存する場所については、レポートパラメーターを参照してください。

FORCEALL

設定可能な値：

YES、NO

現在インストールされ、選択されているソフトウェアコンポーネント、ファームウェアコンポーネント、およびバンドルを再書き込みまたはダウングレードします。

FORCEBUNDLE

設定可能な値：

YES、デフォルト = NO

選択されているバンドルに含まれ、現在インストールされているコンポーネントを再書き込みまたはダウングレードします。

FORCEROM

設定可能な値：

YES、NO

現在インストールされ、選択されているファームウェアコンポーネントを再書き込みまたはダウングレードします。

FORCESOFTWARE

設定可能な値 :

YES、NO

現在インストールされ、選択されているソフトウェアコンポーネントを再書き込みまたはダウングレードしません。

HOST

設定可能な値 :

IPアドレス、DNS名

リモートサーバー、リモートのiLO NICポート、c-Class BladeSystem用のVirtual Connect Ethernetもしくはファイバーチャネルモジュール、またはBladeSystem 0AのIPアドレスまたはDNS名です。

エンクロージャーに2つの0Aがある場合、このパラメーターはアクティブな0Aです。IPアドレスを指定する場合は、IPv4またはIPv6形式を使用します。

IGNOREERRORS

このパラメーターにより、インストールが継続され、エラーが無視されます。

設定可能な値 :

All - エラーが発生したりリモートノードを無視し、他のノードへの展開を続行します。

ServerNotFound - ファームウェアまたはソフトウェアを複数のリモートホストに同時に展開する場合に、アクティブではない、または利用できないリモートホストをバイパスします。

BadPassword - 提供された認証応報が誤っていると報告されたリモートノードをバイパスし、他のノードの処理を続行します。

FailedDependencies - 失敗した依存状態のあるすべてのノードを無視し、準備ができていないノードによってプロセスが進められます。

ILOCACENABLED - iLOでCACモードが有効になっているノードをバイパスし、他のノードで続行します。iLO管理者認証情報は必要ありません。

iLOHighSecurityMode - iLOで高セキュリティモードが有効になっているノードをバイパスし、他のノードで続行します。iLO管理者認証情報は必要ありません。

CHIFSignFailure - CHIFドライバーコンポーネントの署名検証に失敗したときにノードをバイパスし、他のノードで続行します。

CHIFInstallFailure - CHIFドライバーのインストールに失敗したときにノードをバイパスし、他のノードで続行します。

IGNORETPM

設定可能な値 :

YES、NO

TPMを有効にした場合は、警告メッセージを無視し、コンポーネントのインストールを続行します。TPMについては、Smart Update Managerユーザーガイドを参照してください。

IGNOREWARNINGS

設定可能な値 :

YES、NO

SUMがノードに関する警告を受けた後でも、インストールの続行が許可されます。一部の警告は、次のとおりです。

- Serviceguardクラスターのアクティブメンバー
- TPMの警告
- Superdome X固有の警告
- 保留中iLOインストールキューの警告
- iLOタスクキューの例外
- iLO 5およびiSUTの警告

IMPORT_CONFIGURATION=<path>

このパラメーターは、指定したベースライン内のコンポーネントのコンポーネント構成設定を含むディレクトリを示します。ベースライン内のコンポーネント構成は、インポートしたコンポーネント構成によって上書きされます。

INSTALLED_REPORT

設定可能な値：

YES、NO

すべてのノードにインストールされているすべてのファームウェア、ソフトウェア、およびドライババージョンをリスト表示するレポートが生成されます。

SUMは、インベントリを実行し、アップデートを展開し、レポートを生成してから終了します。

SUMがレポートを保存する場所については、レポートパラメーターを参照してください。

INVENTORY_REPORT

設定可能な値：

YES、NO

指定されたレポジトリ内のコンポーネントをリスト表示するレポートを生成します。

SUMは、インベントリを実行し、レポートを生成してから終了します。アップデートを展開しません。

SUMがレポートを保存する場所については、レポートパラメーターを参照してください。

LOGFILENAME = "path"

設定可能な値：

ログファイル名

SUMまたはBladeSystem c-Class OAフラッシュユーティリティからの出力をデフォルトディレクトリ以外のディレクトリにリダイレクトします。

Windowsコンポーネントの場合、デフォルト位置は %SYSTEMDRIVE%\CPQSYSTEM\sum\log\
<netAddress> で、リダイレクト先は <path>\sum\log\
<netAddress> です。

SUMは、コンポーネントを処理するときにディレクトリ %SYSTEMDRIVE%\CPQSYSTEM\ を作成します。SUMは、リダイレクトされたディレクトリにファイル smartupdate_log.txt、smartupdate_detail_log.txt、および smartupdate_InstallDetails.txt のみを書き込みます。SUMは、その他のログをすべてデフォルトディレクトリに書き込みます。

Linuxコンポーネントの場合は、デフォルト位置は /var/log/sum/<netAddress> で、リダイレクト先は <path>/log/sum/<netAddress> です。

NOMGMT

設定可能な値：

YES

SNMPおよびWBEM Providerを使用するコンポーネントを、コンポーネントの選択画面でオプションのアップデートとして指定します。

サイレントモードでは、SUMは、AMS、SNMP、またはWBEM Providerをアップデートしません。

OAPWD

ユーザーは、各 HOST 変数の前に OAPWD 変数を複数回定義することができます。

VCに関連するOAのパスワード認証情報を提供します。[TARGETS] セクションの HOST 変数の前に、これらの変数の値を定義します。このパラメーターはVCターゲットに対してのみ適用されます。

OAPASSWORD を使用することもできます。

OAUID

ユーザーは、各 HOST 変数の前に OAUID 変数を複数回定義することができます。

VCに関連するOAのユーザー名認証情報を提供します。[TARGETS] セクションの HOST 変数の前に、これらの変数の値を定義します。このパラメーターはVCファームウェアに対してのみ適用されます。

OAUSER または OAUSERNAME を使用することもできます。

ONFAILEDDEPENDENCY

失敗した依存状態がコンポーネントに発生した場合のプロセスの進め方をSUMに指示します。

設定可能な値：

OmitHost (デフォルト) - ホストは障害状態に設定され、SUMはインストールを試行しません。

OmitComponent: 影響を受けるコンポーネントの選択が解除され、失敗した依存状態が発生していないアップデートによってプロセスが進められます。

`Force`: 失敗した依存状態を含むアップデートも含めすべてのアップデートのインストールが試みられます。

OPTIONS

設定可能な値:

1つ以上のCLIスイッチ

入力ファイル内にある、構成設定を上書きするSUM CLIオプションを指定します。カンマを使用してパラメーターを区切ります。

LDUで以前にサポートされた `LSPOPTIONS` パラメーターに代わるパラメーターです。

REBOOTALLOWED

設定可能な値:

`YES`、`NO`

必要に応じて再起動できます。

REBOOTALWAYS

設定可能な値:

`YES`、`NO`

常にノードを再起動します。

REBOOTDELAY

設定可能な値:

秒数

再起動する前の待機時間です。

REBOOTLIST

設定可能な値:

以下に例を示します。 `REBOOTLIST=npa1,npa2`

パラメーターの間にスペースを入れしないでください。

Superdome Xサーバーの場合にのみ、この引数を以下の引数とともに使用します。 `UPDATETYPE = ALL` または `UPDATETYPE = PARTITIONS` パーティションファームウェアのアップデート後に再起動するパーティションを指定します。有効な `npar` 値は `npar (number)` です。

REBOOTMESSAGE

設定可能な値:

任意の文字列 (256文字以内)

再起動の前に表示するメッセージを作成します。

REPORT

設定可能な値:

`YES`、`NO`

ノードの概要のレポートリストとレポジトリ内のコンポーネントがノードに与える影響 (たとえば、各コンポーネントがノードに適用されるかどうか) に関する説明を生成します。

SUMは、インベントリを実行し、レポートを生成してから終了します。アップデートを展開しません。

SUMがレポートを保存する場所については、レポートパラメーターを参照してください。

REPORTDIR

SUMのレポートの保存先ディレクトリを指定するには、すべてのレポートコマンドでこのパラメーターを使用します。

REWRITE

設定可能な値:

`YES`、デフォルト = `NO`

インストールされているバージョンと同じバージョンを利用できる、インストール対象のコンポーネントを選択します。これは、アップグレードとは別の機能です。 `downgrade` と組み合わせることができます。

ROMONLY

設定可能な値 :

YES、NO

インストール対象とみなされるコンポーネントをファームウェアコンポーネントのみに制限します。softwareonlyと一緒に使用することはできません。softwareonly および romonly を使用しない場合、すべてのコンポーネントがインストール対象となる可能性があると考えられます。

SCHEDULEDEPLOYFROM

設定可能な値 :

以下に例を示します。SCHEDULEDEPLOYFROM = MMDDYYYY HH:MM

現在の展開にスケジュール開始時刻を追加します。

SCHEDULEDEPLOYTO

設定可能な値 :

以下に例を示します。SCHEDULEDEPLOYTO = MMDDYYYY HH:MM

現在の展開にスケジュール終了時刻を追加します。

SILENT

設定可能な値 :

YES

GUI出力を伴わないサイレントインストールが行われます。データはすべてログファイルに書き込まれます。生成されるプロンプトではすべてデフォルトオプションが使用され、ユーザーの入力なしでインストールが実行されます。



注記:

NOの値を入力すると、入力ファイルが正しく機能しません。SUMはGUIモードを起動しようとしています。

SKIPTARGET

設定可能な値 :

YES (デフォルト)、NO

デフォルト設定では、リモートノードで実行中のリモートセッションをSUMが認識した場合、リモートノードをスキップします。

リモートノードで既存のSUMセッションが進行しているときの動作を定義します。

既存のSUMセッションがある場合にホストをスキップするには、このパラメーターを使用します。NOは、進行中のセッションを無効化し、リモートホストのインストールフレームワークを再初期化します。

SOFTWAREONLY

設定可能な値 :

YES、NO

インストール対象とみなされるコンポーネントをソフトウェアコンポーネントのみに制限します。romonlyと一緒に使用することはできません。softwareonly または romonly を使用しない場合、すべてのコンポーネントがインストール対象となる可能性があると考えられます。

TPMBYPASS

TPM警告をバイパスするには、このパラメーターを使用します。

UPDATEEXISTINGRECOVERYSET

設定可能な値 :

YES、NO

iLOリポジトリ内の既存のリカバリセットを、iLO、BIOS、CPLD、IE、およびME（インテルプロセッサの場合、IEとME）の新しいファームウェアバージョンを使用して、現在の展開からアップデートします。Gen10サーバーのみ。

UPDATETYPE

設定可能な値 :

ALL、COMPLEX、PARTITIONS

この引数は、どのSuperdome Xファームウェアをアップデートするかを決定します。

USE_SSHKEY

設定可能な値 :

YES、NO

SSH PEM形式のキーファイルをLinuxノードに使用できます。ノード属性としてではなく、セッション属性として使用する必要があります。

USEAMS

設定可能な値 :

YES

AMSコンポーネントをインストールするようにSUMを指定します。

このオプションは、Gen8以降のサーバーに適用されます。ProLiant G7以前のサーバーにこのパラメーターを設定すると、このパラメーターはSUMで無視されます。

デフォルトでは、これらのコンポーネントはGen8以降のサーバーのみにインストールされます。このパラメーターは、Integrityサーバーには適用されません。

USECURRENTCREDENTIAL

設定可能な値 :

YES、NO

ローカルホストの認証情報を使用してノードにアクセスでき、ノードごとに明示的にユーザー名とパスワードを入力する必要がなくなります。

ただし、アクセス対象のノードで現在の認証情報が有効であることが前提です (Windowsにのみ適用)。

USESNMP

設定可能な値 :

YES

SNMPコンポーネントをインストールするようにSUMを指定します。

これらのコンポーネントはデフォルトではオプションで、このパラメーターを使用しない場合はインストールされません。このパラメーターは、Integrityサーバーには適用されません。

Gen9のみ : SUMは、SNMPエージェントがインストールされる時にSMHテンプレートをインストールします。



注記:

Gen10サーバーでは、SNMPエージェントがサポートされていません。

USEWMI

設定可能な値 :

YES (Windowsのみ)

WBEMコンポーネントをインストールするようにSUMを指定します。

これらのコンポーネントはデフォルトではオプションで、このパラメーターを使用しない場合はインストールされません。



注記:

Gen10サーバーでは、WBEMエージェントがサポートされていません。

VERBOSE

設定可能な値 :

YES、NO

このパラメーターは、展開時にSUMが提供する詳細情報の量を決定します。

以下の属性はノードおよびベースラインに関連します。これらの属性をノードまたはベースラインごとに使用します。

ETHACTDELAY

VC-Enetモジュールの有効化または再起動の間の時間を分単位で設定するには、このコマンドを使用します。

設定可能な値 :

0 (デフォルト) ~60分。

ETHACTORDER

VC-Enetモジュールの有効化順序を決めるには、このコマンドを使用します。

設定可能な値：

ODDEVEN (デフォルト)

PARALLEL

SERIAL

MANUAL

FCACTDELAY

VC-FCモジュールの有効化または再起動の間に待機する時間を指定するには、このコマンドを使用します。

設定可能な値：

0 (デフォルト) ~60分。

FCACTORDER

VC-FCの有効化順序を指定するには、このコマンドを使用します。

設定可能な値：

ODDEVEN (デフォルト)

PARALLEL

SERIAL

MANUAL

ILO_PASSWORD

設定可能な値：

<ilo password>

ILO_USERNAME パラメーターに関連付けられているiLO管理者のパスワード。

ILO_USERNAME

設定可能な値：

<ilo username>

iLO管理者の認証情報を入力します。サーバーのiLOが高セキュリティモードで構成されている場合、ホストOSからiLOに接続するには、このパラメーターを使用します。

INSTALLSETDESCRIPTION

設定可能な値：

<string>

インストールセットの説明を設定します。

Gen10以降のサーバーのみ。

INSTALLSETNAME

設定可能な値：

<string>

iLOに保存する必要があるインストールセットの名前を設定します。

Gen10以降のサーバーのみ。

MANUALLYMANAGEILOREPOSITORY

設定可能な値：

YES、NO

YES に設定すると、SUMは新しいインストールセット用の領域を作成するために、iLOレポジトリ上のインストールセットを自動的に削除できません。

Gen10以降のサーバーのみ。

デフォルトは自動です。つまり、SUMでアップロードされた新しいコンポーネントを収容する領域がiLO NANDにない場合、SUMは（コンポーネントの合計サイズに基づいて）最小サイズのインストールセットを削除し、新しいコ

ンポーネントおよびインストールセット用の領域を作成します。

PASSPHRASE

設定可能な値 :

`<passphrase=12345>`

SSHkeyファイルのパスフレーズ。 `USE_SSHKEY` および `PRIVATEKEYFILE` パラメーターとともに使用します。

PRIVATEKEYFILE

設定可能な値 :

`<c:/keyfile_directory/ssh.pem>`

プライベートキーファイルへのフルパスを指定します。

`USE_SSHKEY` パラメーターとともに使用します。

PWD

設定可能な値 :

`<password>`

UID に指定されたユーザーIDのパスワードを使用します。

ノードにログインするためのパスワードを指定します。

SAVEINSTALLSET

設定可能な値 : `YES`、`NO`

iL0レポジトリにインストールセットを保存します。

Gen10以降のサーバーのみ。

SKIP_PREREQS

設定可能な値 :

`YES`、`NO` (WindowsおよびLinux)

`YES` と入力すると、前提条件のセルフインベントリコンポーネント (CHIFドライバーなど) がインストールされません。

SKIPMISSINGCOMPSIG

設定可能な値 :

`YES`、`NO`

`YES` は、コンポーネントの署名ファイルが欠落しているコンポーネントをスキップするようにSUMに指示します。

Gen10以降のサーバーのみ。

SOURCEPATH

設定可能な値 :

`Directory path`、`UNC location`

単一のローカルのベースラインパスまたはUNCファイル共有を指定します。この操作により、ローカルまたはデフォルトベースラインの代わりに、指定されたパスからインベントリが作成されます。

入力ファイルモードを使用したSUM CLIでは、httpベースラインがサポートされていません。

STAGEONLY

設定可能な値 :

`YES`、デフォルト = `NO`

インストールセットを作成して、適用可能なすべてのコンポーネントをiL0レポジトリにアップロードします。展開を実行するために作成されたインストールセットは開始されません。作成されたインストールセットを使用して、後でシステムをアップデートできます。

SUPASSWORD

設定可能な値 :

`<superuserpassword>`

スーパーユーザーのパスワードを指定するには、この引数を使用します。

Linuxノードにログインしたら、通常の認証情報を使用して、これらの認証情報を使用するセッションを昇格できます。アップデートを実行するには、SUMIに管理者レベルのアクセス権が必要です。

SUUSERNAME

設定可能な値：

<superusername>

スーパーユーザーのユーザー名を指定するには、この引数を使用します。



注記：

<superuserpassword> および <superusername> を使用して、スーパーユーザーのユーザー名とパスワードを指定します。Linuxノードにログインしたら、通常の認証情報を使用して、これらの認証情報を使用するセッションを昇格できます。アップデートを実行するには、SUMIに管理者レベルのアクセス権が必要です。

TARGETTYPE

ノードのタイプ (`--targettype Linux` (Linux) 、 `/targettype` (Windows)) を指定します。これにより、インベントリプロセスを短縮できます。

有効なノードのタイプは次のとおりです。

Windows

Linux

fc_switch

OA

sdx

iLO

virtual_connect - プライマリVC EnetモジュールのIPアドレスを使用します。

sas_switch

VMware

コマンドでグループを指定すると、SUMIは、そのグループ内のすべてのノードが同じノードタイプであるとみなします。

UID

設定可能な値：

<username>

ノードにログインするためのユーザーIDを指定します。

SUMIでは、Windowsドメイン (たとえば、`domain1/userid1`) がサポートされています。

UNC_PASSWORD

設定可能な値：

<password>

UNCの場所にアクセスするためのパスワードを指定します。

UNC_USERNAME

設定可能な値：

<username>

SOURCEPATH で指定したUNCの場所のユーザー名認証情報を指定します。

USEILOSAVED

設定可能な値：

<string>

iLOレポジトリに保存した名前が指定されたインストールセットがノードのベースラインとして使用されます。

Gen10以降のサーバーのみ。

USESUDO

設定可能な値：

YES、NO

sudo コマンドを使用できます。

リモートノードのusernameとpasswordがsudoユーザーの認証情報であることを指定します。入力ファイルでusernameおよびpasswordとともに `USESUDO` を指定すると、usernameおよびpasswordはsudoの認証情報であるとみなされます。

VCENTER_HOST

VMware vCenterのIPアドレスを入力します。

ロックダウンモードになっているVMware vCenterサーバーからチケットを生成するには、VMware ESXiノードでこのコマンドを使用します。

VCENTER_PASSWORD

パスワードを入力し、VMware vCenterにログインします。

詳しくは、`VCENTER_HOST` を参照してください。

VCENTER_USERNAME

ユーザー名を入力し、VMware vCenterにログインします。

詳しくは、`VCENTER_HOST` を参照してください。

SDRからのSUMおよびコンポーネントのダウンロード

Linuxシステムを使用している場合は、SUMをRPMとしてSDRからダウンロードできます。一般的なYUMコマンドを使用して、SUMおよびコンポーネントをSDRからダウンロードし、インストールすることができます。RPMとしてSUMをダウンロードし、インストールする方法については、次のURLにあるLinux best practices: Using Service Pack for ProLiant (SPP) and Software Delivery Repository (SDR)を参照してください。

<https://www.hpe.com/info/spp/documentation>

SDRの使用については、次を参照してください。

<https://www.hpe.com/servers/sdr>

Webサイトおよびサポート

Webサイト

Smart Update Manager	http://www.hpe.com/servers/sum
Smart Update Manager Information Library	http://www.hpe.com/info/sum-docs
Smart Updateツール	http://www.hpe.com/servers/sut
Smart UpdateツールのInformation Library	http://www.hpe.com/info/isut-docs
Service Pack for ProLiant	http://www.hpe.com/jp/spp
Service Pack for ProLiantのドキュメント	http://www.hpe.com/info/spp/documentation
Service Pack for ProLiantのダウンロード	http://www.hpe.com/jp/servers/spp_dl
Service Pack for ProLiantカスタムダウンロード	http://www.hpe.com/servers/spp/custom
HPE SDRサイト	http://downloads.linux.hpe.com

上記以外のWebサイトについては、[サポートと他のリソース](#)を参照してください。

Hewlett Packard Enterpriseサポートへのアクセス

- ライブアシスタンスについては、Contact Hewlett Packard Enterprise WorldwideのWebサイトにアクセスします。

<https://www.hpe.com/info/assistance>

- ドキュメントとサポートサービスにアクセスするには、Hewlett Packard EnterpriseサポートセンターのWebサイトにアクセスします。

<https://www.hpe.com/support/hpesc>

ご用意いただく情報

- テクニカルサポートの登録番号（該当する場合）
- 製品名、モデルまたはバージョン、シリアル番号
- オペレーティングシステム名およびバージョン
- ファームウェアバージョン
- エラーメッセージ
- 製品固有のレポートおよびログ
- アドオン製品またはコンポーネント
- 他社製品またはコンポーネント

アップデートへのアクセス

- 一部のソフトウェア製品では、その製品のインターフェイスを介してソフトウェアアップデートにアクセスするためのメカニズムが提供されます。ご使用の製品のドキュメントで、ソフトウェアの推奨されるソフトウェアアップデート方法を確認してください。
- 製品のアップデートをダウンロードするには、以下のいずれかにアクセスします。

Hewlett Packard Enterpriseサポートセンター

<https://www.hpe.com/support/hpesc>

Hewlett Packard Enterpriseサポートセンター：ソフトウェアのダウンロード

<https://www.hpe.com/support/downloads>

マイHPEソフトウェアセンター

<https://www.hpe.com/software/hpesoftwarecenter>

- eNewslettersおよびアラートをサブスクライブするには、以下にアクセスします。

<https://www.hpe.com/support/e-updates-ja>

- お客様の資格を表示、アップデート、または契約や保証をお客様のプロファイルにリンクするには、Hewlett Packard EnterpriseサポートセンターのMore Information on Access to Support Materialsページに移動します。

<https://www.hpe.com/support/AccessToSupportMaterials>

① 重要:

一部のアップデートにアクセスするには、Hewlett Packard Enterpriseサポートセンターからアクセスするときに製品資格が必要になる場合があります。関連する資格を使ってHPEパスポートをセットアップしておく必要があります。

リモートサポート（HPE通報サービス）

リモートサポートは、保証またはサポート契約の一部としてサポートデバイスでご利用いただけます。リモートサポートは、インテリジェントなイベント診断を提供し、ハードウェアイベントをHewlett Packard Enterpriseに安全な方法で自動通知します。これにより、ご使用の製品のサービスレベルに基づいて、迅速かつ正確な解決が行われます。ご使用のデバイスをリモートサポートに登録することを強くおすすめします。

ご使用の製品にリモートサポートの追加詳細情報が含まれる場合は、検索を使用してその情報を見つけてください。

リモートサポートおよびプロアクティブケア情報

HPE通報サービス

<http://www.hpe.com/jp/hpaalert>

HPEプロアクティブケアサービス

<http://www.hpe.com/services/proactivecare-ja>

HPEデータセンターケアサービス

<http://www.hpe.com/services/datacentercare>

HPEプロアクティブケアサービス：サポートされている製品のリスト

<http://www.hpe.com/services/proactivecaresupportedproducts>

HPEプロアクティブケアアドバンスドサービス：サポートされている製品のリスト

<https://www.hpe.com/jp/ja/services/proactive-care-central.html>

保証情報

ご使用の製品の保証情報を確認するには、以下のリンクを参照してください。

HPE ProLiantとIA-32サーバーおよびオプション

<https://www.hpe.com/support/ProLiantServers-Warranties>

HPE EnterpriseおよびCloudlineサーバー

<https://www.hpe.com/support/EnterpriseServers-Warranties>

HPEストレージ製品

<https://www.hpe.com/support/Storage-Warranties>

HPEネットワーク製品

<https://www.hpe.com/support/Networking-Warranties>

規定に関する情報

安全、環境、および規定に関する情報については、Hewlett Packard Enterpriseサポートセンターからサーバー、ストレージ、電源、ネットワーク、およびラック製品の安全と準拠に関する情報を参照してください。

<https://www.hpe.com/support/Safety-Compliance-EnterpriseProducts>

規定に関する追加情報

Hewlett Packard Enterpriseは、REACH（欧州議会と欧州理事会の規則EC No 1907/2006）のような法的な要求事項に準拠する必要に応じて、弊社製品の含有化学物質に関する情報をお客様に提供することに全力で取り組んでいます。この製品の含有化学物質情報レポートは、次を参照してください。

<https://www.hpe.com/info/reach>

RoHS、REACHを含むHewlett Packard Enterprise製品の環境と安全に関する情報と準拠のデータについては、次を参照してください。

<https://www.hpe.com/info/ecodata>

社内プログラム、製品のリサイクル、エネルギー効率などのHewlett Packard Enterpriseの環境に関する情報については、次を参照してください。

<https://www.hpe.com/info/environment>

ドキュメントに関するご意見、ご指摘

Hewlett Packard Enterpriseでは、お客様により良いドキュメントを提供するように努めています。ドキュメントを改善するために役立てさせていただきますので、何らかの誤り、提案、コメントなどがございましたら、ドキュメントフィードバック担当 (docsfeedback@hpe.com) へお寄せください。このメールには、ドキュメントのタイトル、部品番号、版数、およびドキュメントの表紙に記載されている刊行日をご記載ください。オンラインヘルプの内容に関するフィードバックの場合は、製品名、製品のバージョン、ヘルプの版数、およびご利用規約ページに記載されている刊行日もお知らせください。